

若者の社会意識及び活動に関する調査結果

○性別

	人数（人）	割合（％）
男	272	68.5
女	124	31.2
無回答	1	0.3
合計	397	100.0

○年齢

	人数（人）	割合（％）
18～19 歳	17	4.3
20～24 歳	139	35.0
25～29 歳	176	44.3
30 歳以上	58	14.6
無回答	7	1.8
合計	397	100.0

○同居の人

		人数（人）	割合（％）	
一人暮らし		54	13.6	
同居者がいる	父	206	51.9	
	母	212	53.4	
	兄弟姉妹	2 人	79	19.9
		3 人	13	3.3
		4 人	1	0.3
		5 人	0	0.0
	祖父	45	11.3	
	祖母	59	14.9	
	夫又は妻	107	27.0	
	自分の子ども	57	14.4	
その他	29	7.3		
無回答		1	0.3	

[記号の意味，集計の考え方]

- * 複数回答の設問は，各選択肢の選択率（全回答者数のうち，該当選択肢を選択した割合）を比較している。
- * 回答数の制限を超えて回答している場合（1つのみの選択で2つ印がついている等），すべての回答について有効とした。（そのため，回答数が回答者数を超えている場合がある。）
- * 割合は，小数点第2位で四捨五入とした。

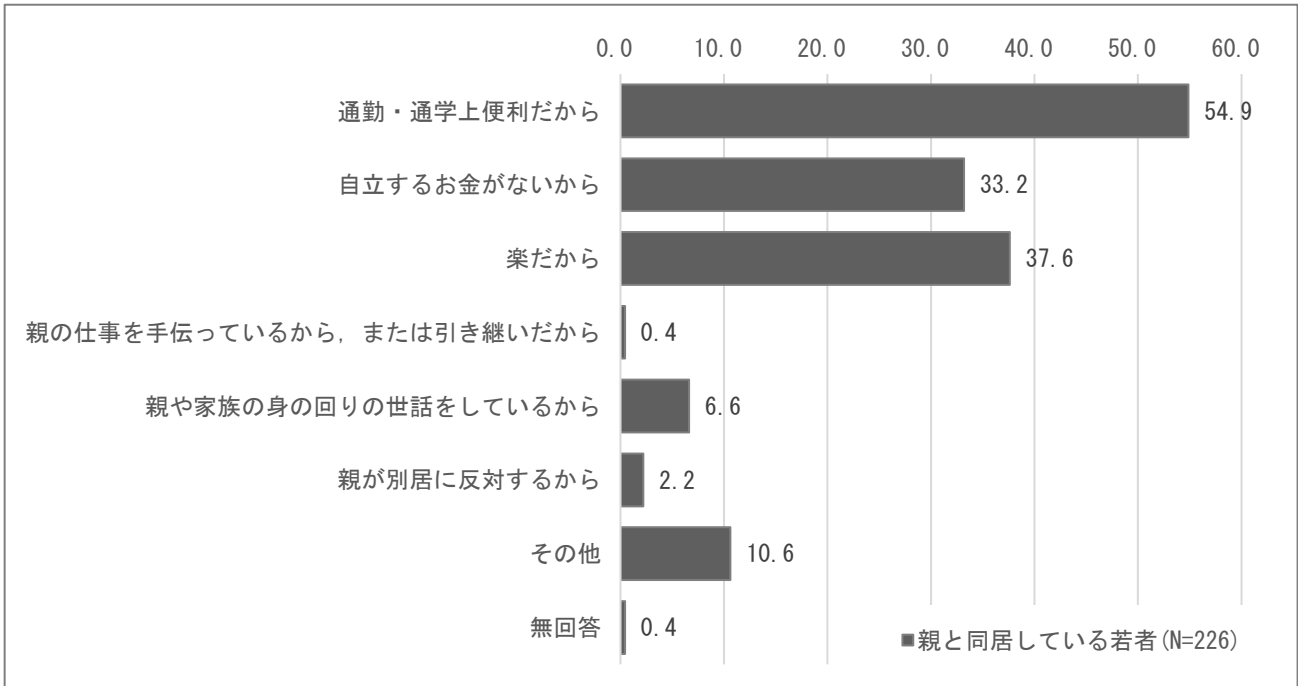
I 家庭での生活について

[若者 問1]

現在、親と同居している人にうかがいます。その理由はどうしてですか。(複数回答)

【親と同居の理由】

(%)



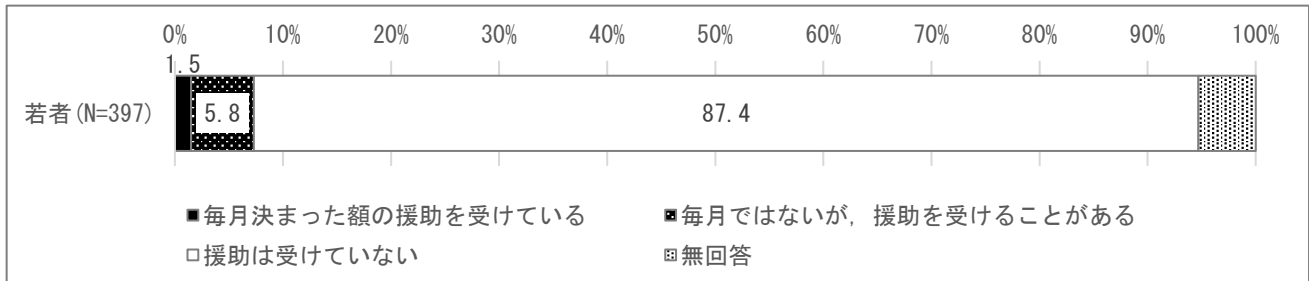
親と同居の理由は「通勤・通学上便利だから」の割合が最も高く、次いで「楽だから」「自立するお金がない」となっている。その他の記述では「家を出る理由がない」(5人)が最も割合が高くなっているほか、「転居先を探している最中」(2人)、「結婚するまでは同居」(2人)、「会社の方針が実家からの通勤だから」、「家族だから」、「一緒にいるのが幸せだから」といった意見も挙げられている。

[若者 問2]

あなたは、学費以外で、小遣いや仕送りなど、親から経済的援助を受けていますか。

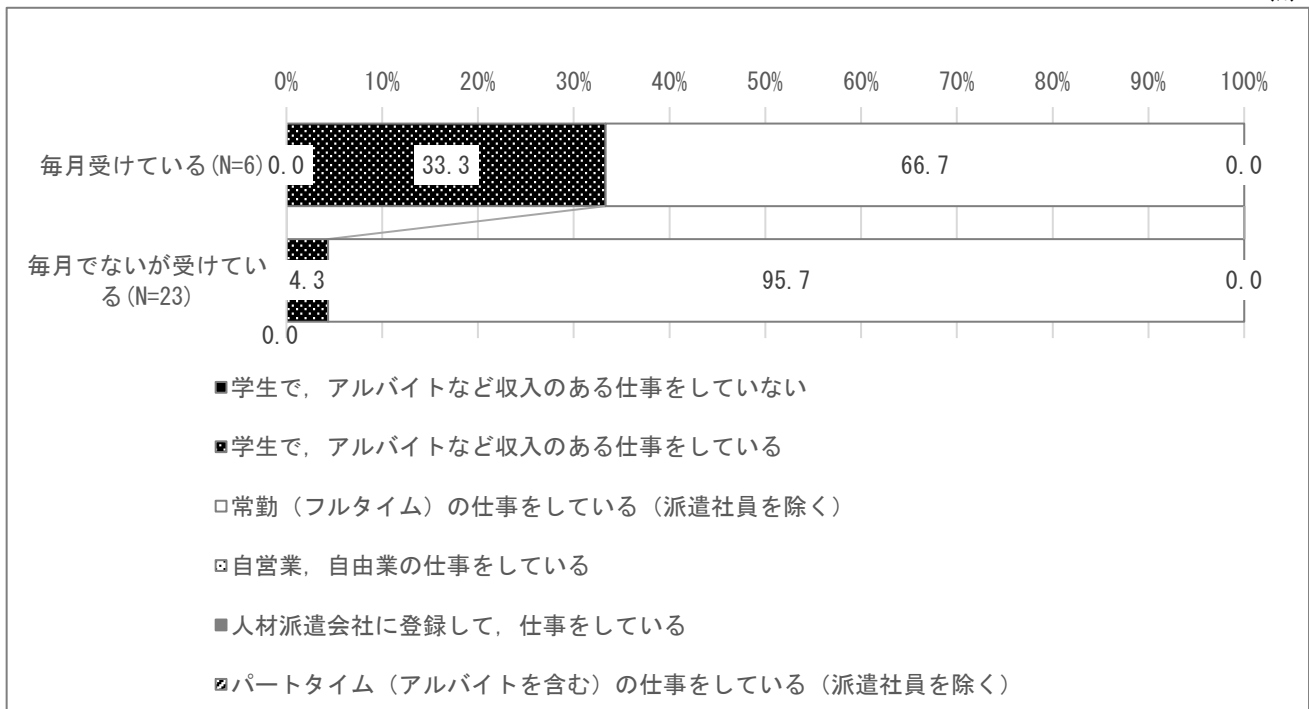
【親からの経済的援助の有無】

(%)



【親からの経済的援助を受けている人・毎月でないが受けている、それぞれの職業】

(%)



約9割の若者が親からの経済的援助を受けていない。親からの経済的援助を「毎月受けている」若者は、「学生でアルバイトをしている」割合が33.3%、「常勤の仕事をしている」割合が66.7%となっている。

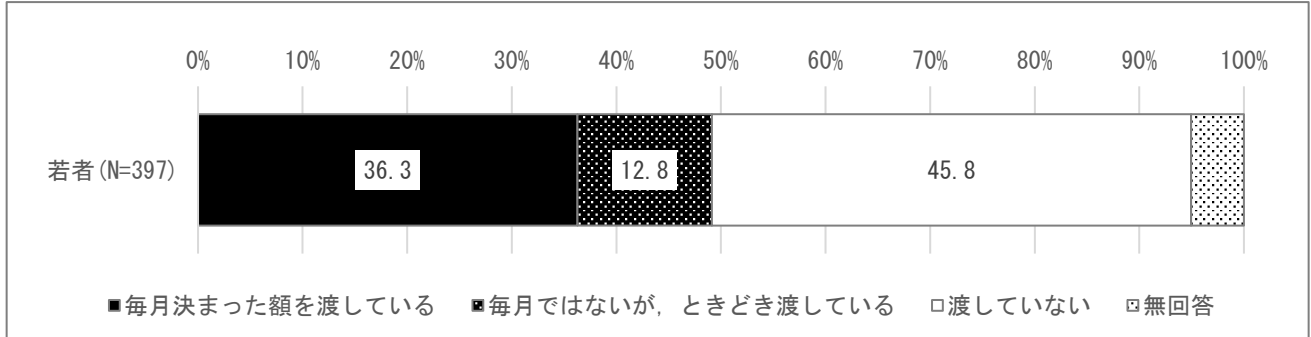
親からの経済的援助を「毎月ではないが受けている」若者では、「常勤の仕事をしている」割合が、95.7%となっているが、この調査における回答者の9割以上が「常勤の仕事」であることも影響していると考えられる。

[若者 問3]

あなたは、親に生活費を渡していますか。

【親に生活費を渡しているか】

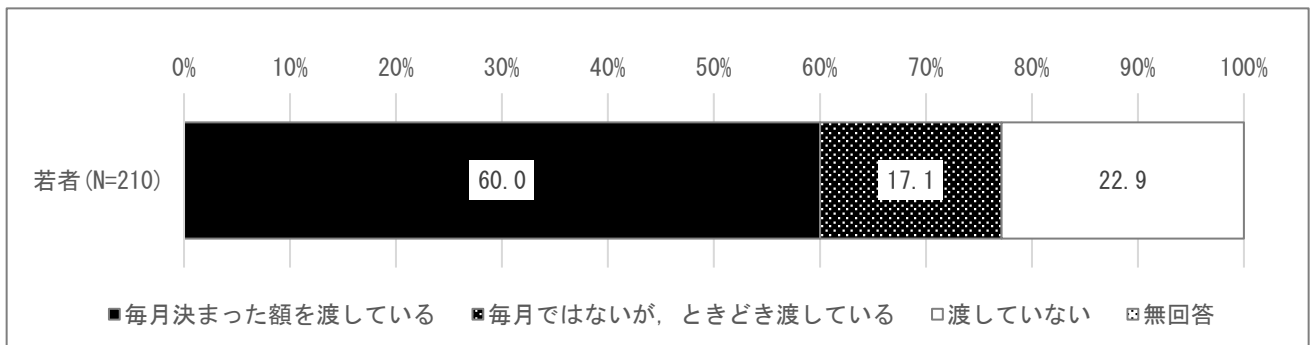
(%)



「渡している」と「渡していない」割合では、渡している(49.1%)割合がわずかに高い。

【父又は母、もしくは両方と同居する独身で生活費を渡しているか】

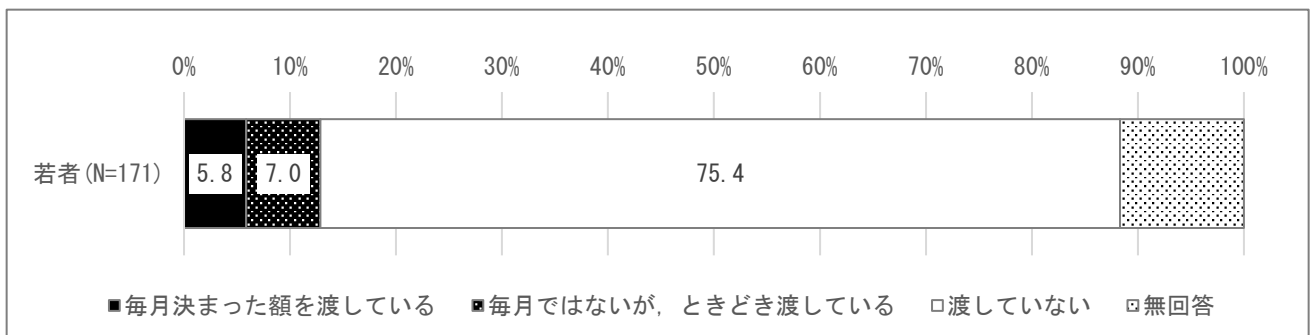
(%)



親と同居している若者は、8割近い割合が親に生活費を渡している。

【親と別居して生活費を渡しているか】

(%)



親と別居している若者は、渡していない割合が7割以上と高くなっている。

II 仕事について

[若者 問4, 5]

あなたは今、次のどれにあてはまりますか。

派遣会社に登録，パートタイム，失業中，無職と答えた場合，その理由はどうしてですか。

【仕事の種類】

	人数（人）	割合（％）
学生で，アルバイトしていない	0	0.0
学生で，アルバイトしている	4	1.0
常勤の仕事	391	98.5
自営業，自由業	0	0.0
人材派遣会社に登録	0	0.0
パートタイム（派遣社員除く）	1	0.3
失業中	0	0.0
無職	0	0.0
無回答	1	0.3
合計（=N）	397	100.0

【派遣社員・パートタイム・失業中・無職の理由】（該当1件）

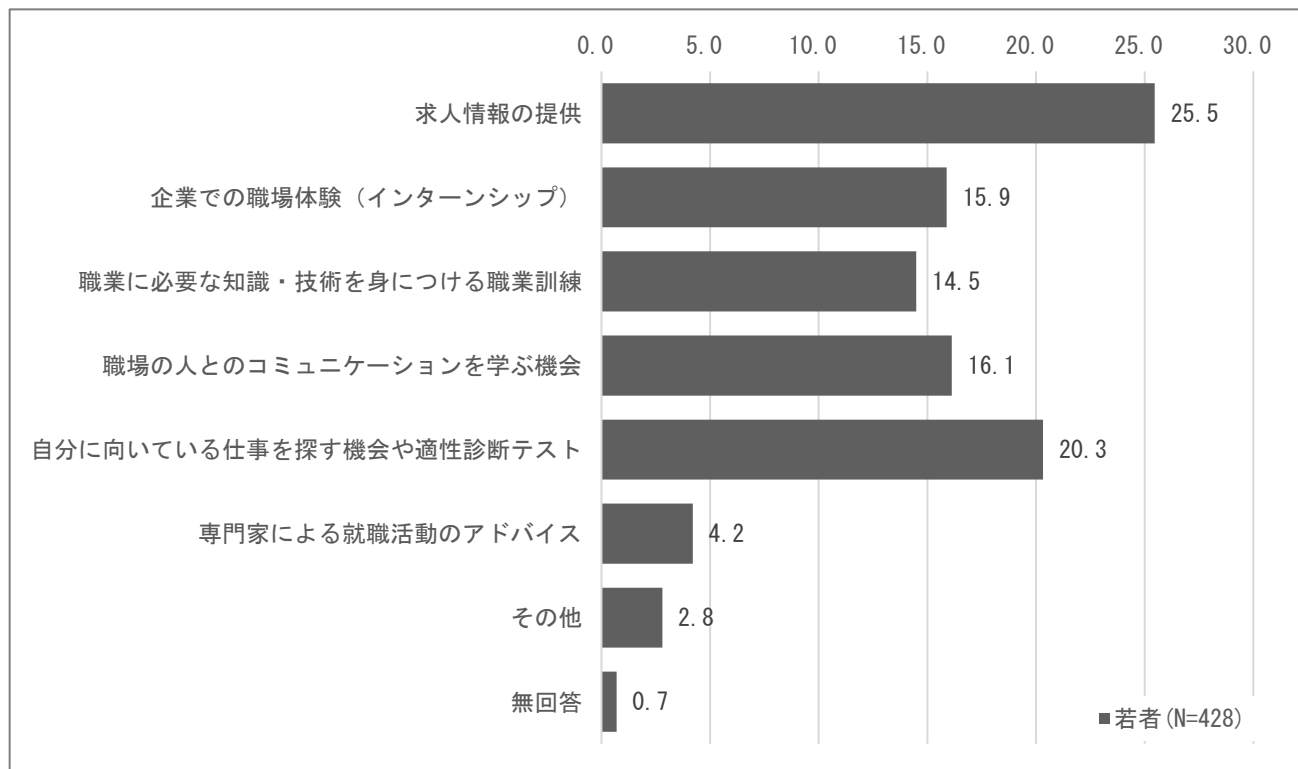
- ・「家事や育児，介護など，家庭の理由から」

[若者 問6]

あなたは、若者の就職支援として何が最も重要だと思いますか。

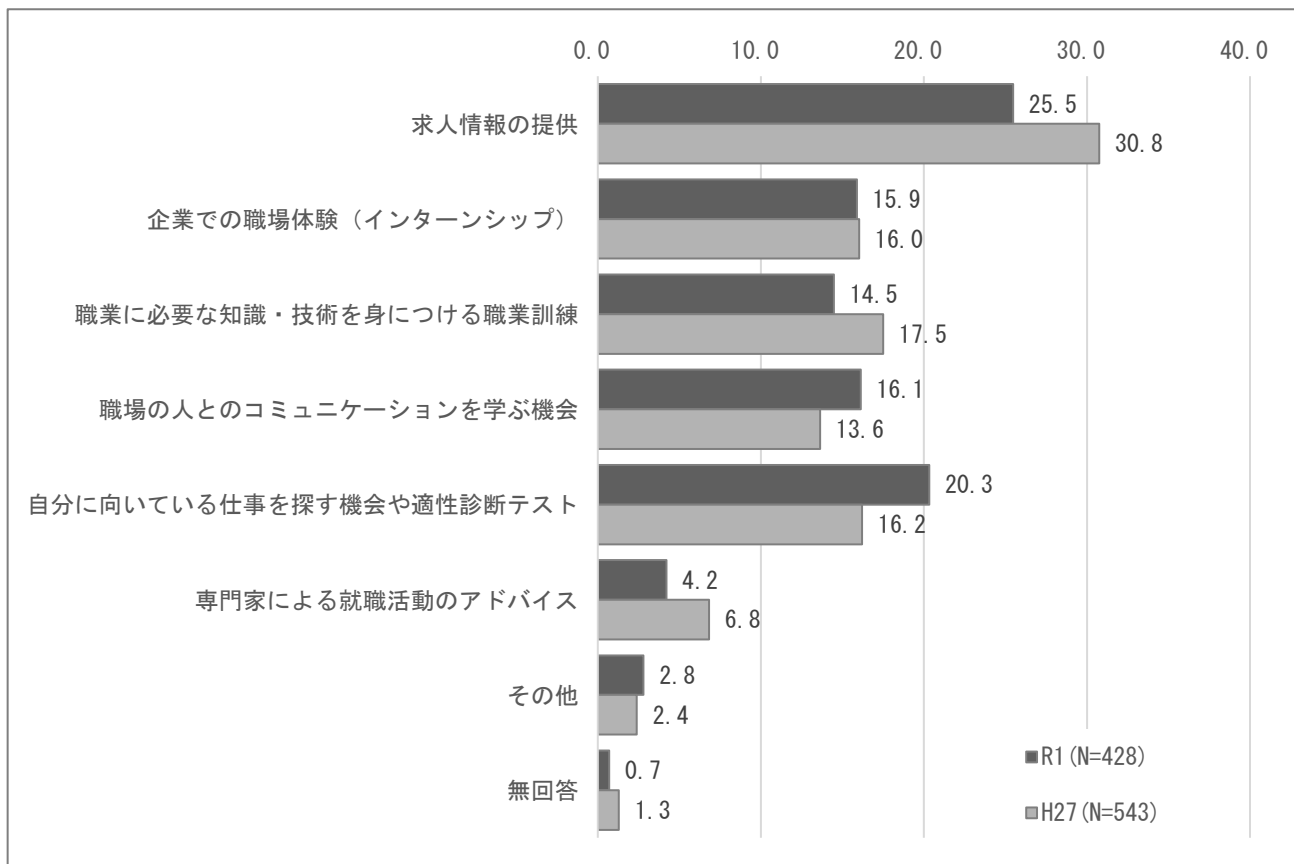
【就職支援で重要だと思うもの】

(%)



就職支援で重要だと思うものの割合は、「求人情報の提供」が最も高く 25.5%となっており、次いで「自分に向いている仕事を探す機会や適性診断テスト」の 20.3%となっている。

ほか、「職場の人とのコミュニケーションを学ぶ機会」「企業での職場体験」「職業に必要な知識・技術を身につける職業訓練」が 15%前後で続いている。



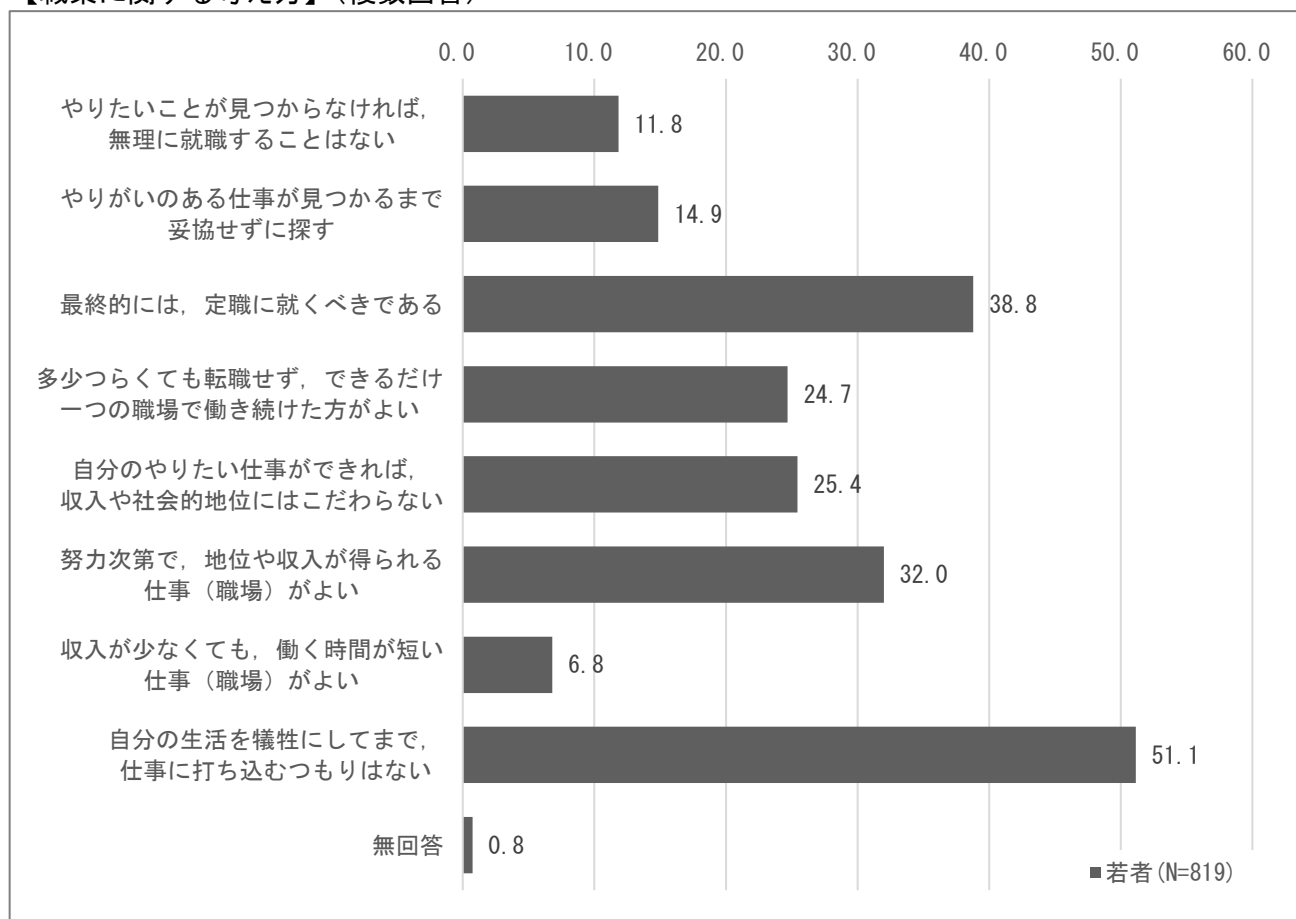
平成 27 年度調査と比較すると、「求人情報の提供」の割合が低下しており、「自分に向いている仕事を探す機会や適性診断テスト」の割合が上昇している。

[若者 問7]

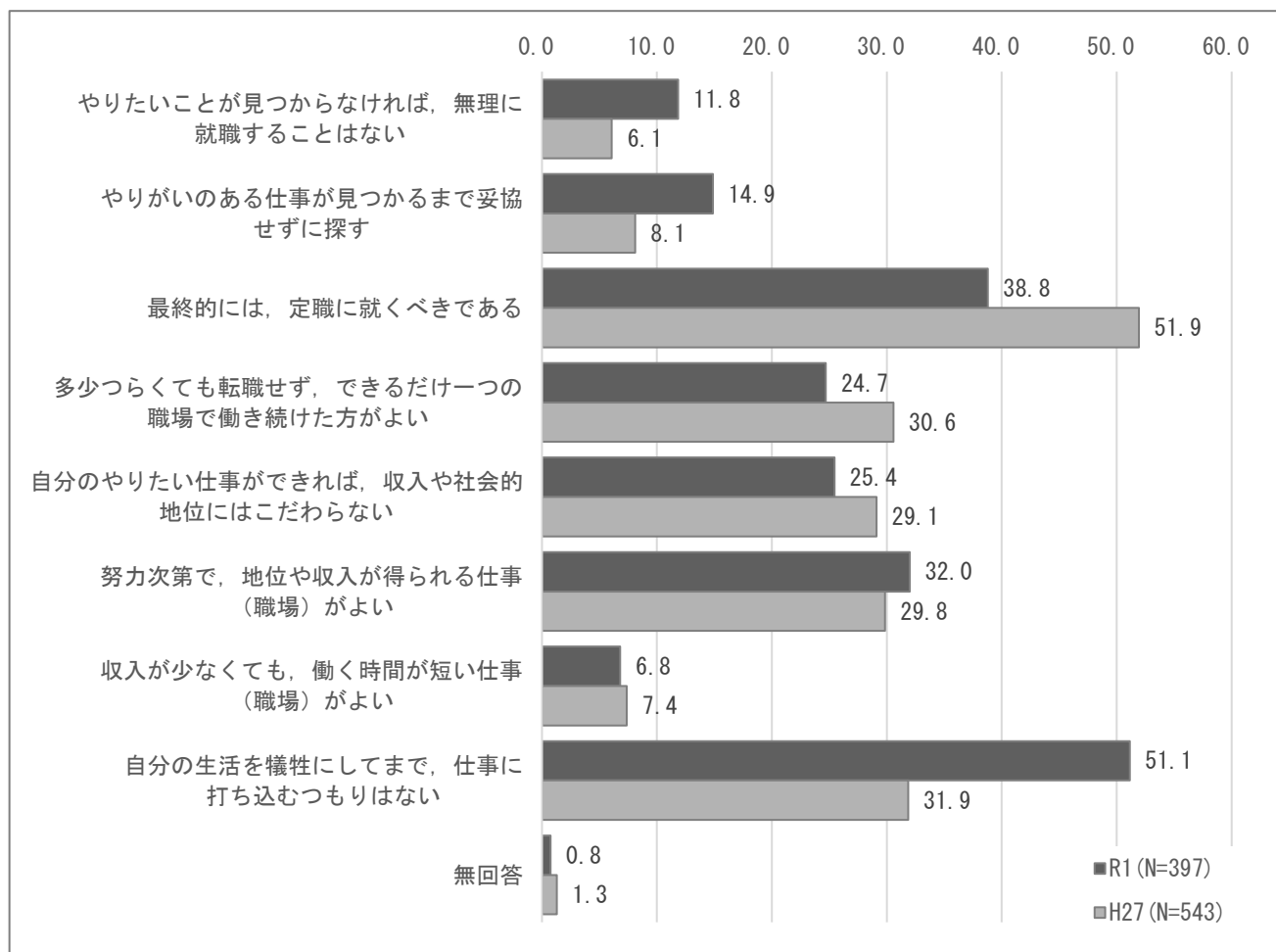
職業に関する考え方について、あなたの考え方に近いものはどれですか。(複数回答)

【職業に関する考え方】(複数回答)

(%)



職業に関する考え方は、「自分の生活を犠牲にしてまで、仕事に打ち込むつもりはない」の割合が51.1%と最も高くなっており、次いで「最終的には、定職に就くべきである」と回答した割合が38.8%となっている。「収入が少なくても、働く時間が短い仕事(職場)がよい」の割合は6.8%と最も低い。



平成 27 年度調査と比較すると、「やりたいこと」「やりがいのある仕事」を選ぶ割合は上昇し、「定職に就く」や「一つの職場で働き続ける」割合は低下している。

一方で、「生活を犠牲にしたくない」割合は上昇しているものの、「働く時間が短く、収入が少ない仕事」、さらに「やりたい仕事ができれば収入・地位にこだわらない」割合は低下している。

平成 27 年度調査と比較すると、「自分の生活を犠牲にしてまで、仕事に打ち込むつもりはない」の割合が大きく上昇しており、「最終的には、定職に就くべき」の割合は大きく低下している。

ほか、「やりたいことが見つからなければ、無理に就職することはない」や「やりがいのある仕事が見つかるまで妥協せずに探す」の割合が上昇しており、「多少つらくても転職せず、できるだけ一つの職場で働き続けた方がよい」や「自分のやりたい仕事ができれば、収入や社会的地位にはこだわらない」の割合が低下している。

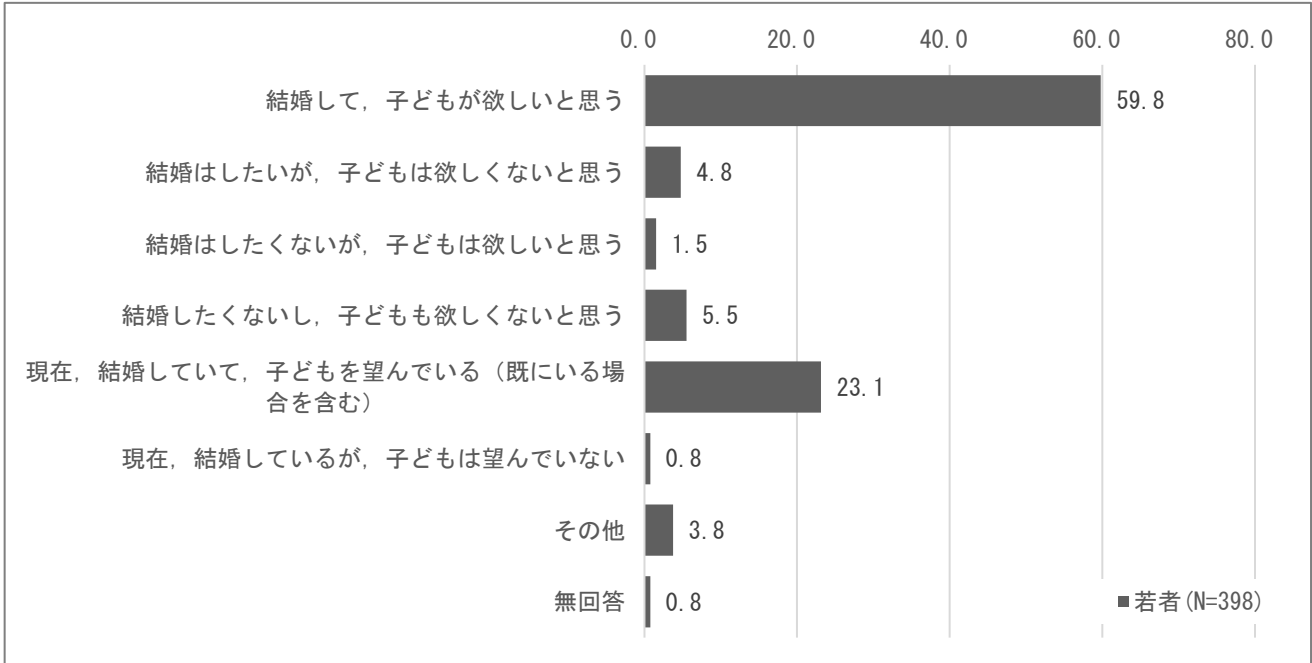
III 将来や生き方について

[若者 問8]

あなたは、結婚についてどのように考えていますか。

【結婚生活・子どもに対する意識】

(%)

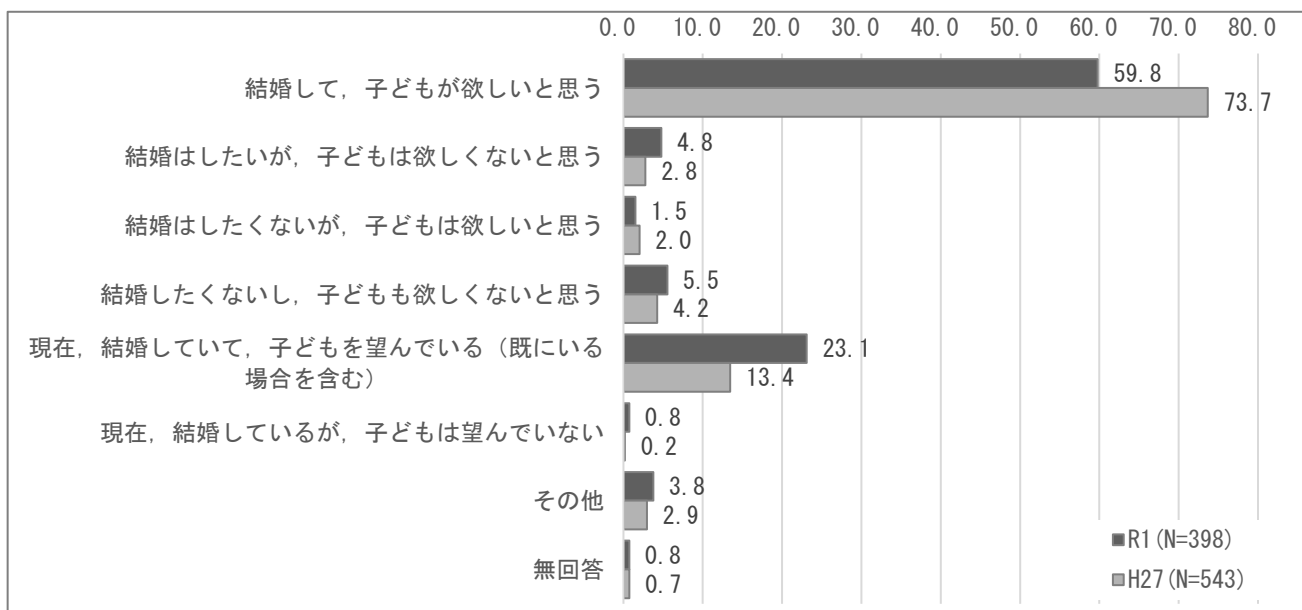


「結婚して、子どもが欲しいと思う」割合が最も高く 59.8%となっている。次いで「現在、結婚していて、子どもを望んでいる（既にいる場合を含む）」割合が 23.1%となっている。

また、その他の記述では、「まだ考えていない」とする回答が多かった。

参考：平成27年度調査との比較 [若者]

(%)



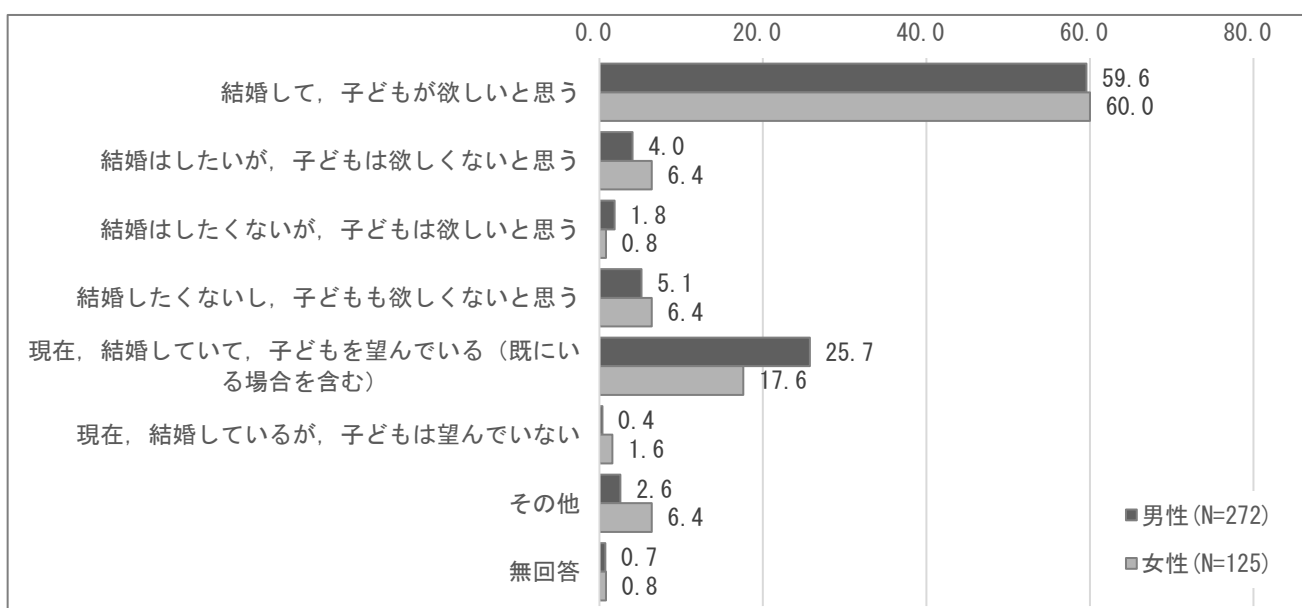
平成27年度調査と比較すると、「結婚して、子どもが欲しいと思う」割合が低下しており、「現在、結婚していて、子どもを望んでいる（既にいる場合を含む）」割合が上昇している。

前回より結婚している若者が多くなっている様子がみられる。

また、「結婚はしたいが、子どもは欲しくないと思う」「結婚したくないし、子どもも欲しくないと思う」と回答した割合がわずかに上昇している。

参考：男女の比較 [若者]

(%)



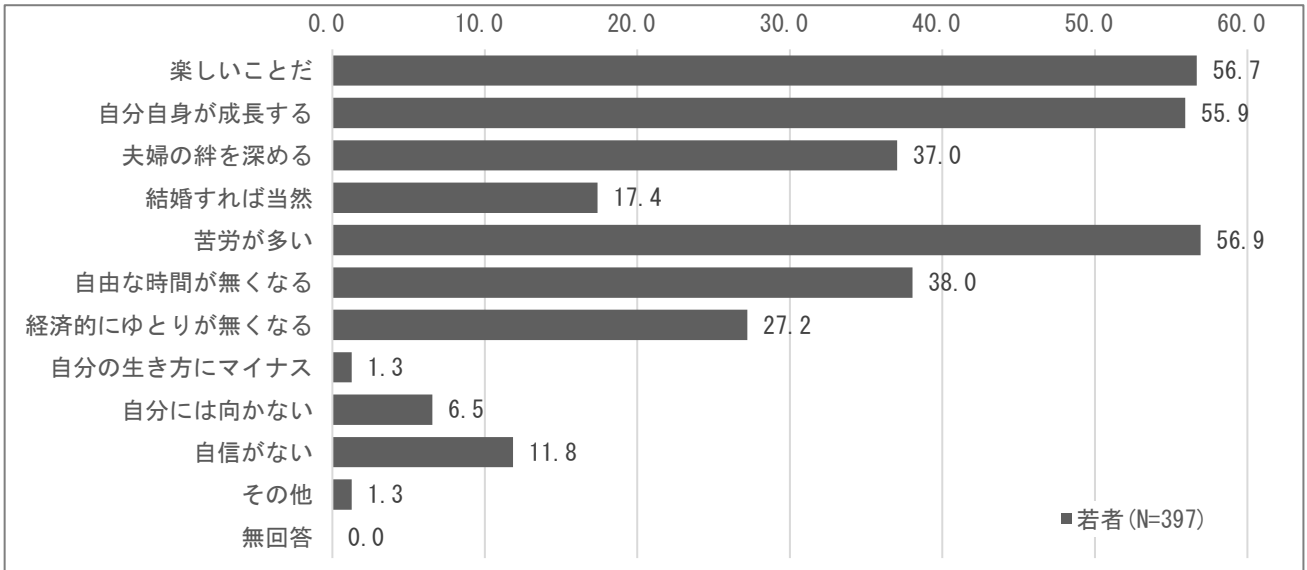
男女の意見を比較すると、「現在、結婚していて、子どもを望んでいる（既にいる場合を含む）」の割合が男性の方が高く女性は低くなっている。

〔若者 問9〕

あなたは、子どもを育てることについてどのようなイメージをお持ちですか。（複数回答）

【子育てに対するイメージ】（複数回答）

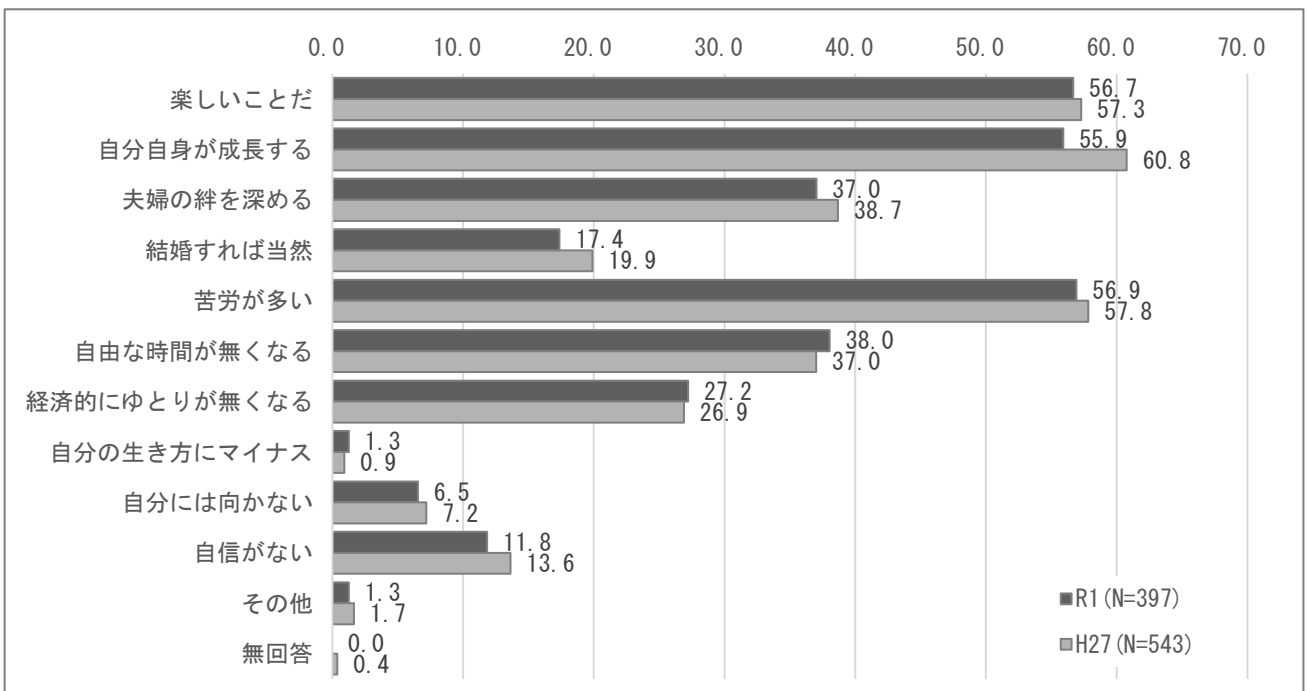
(%)



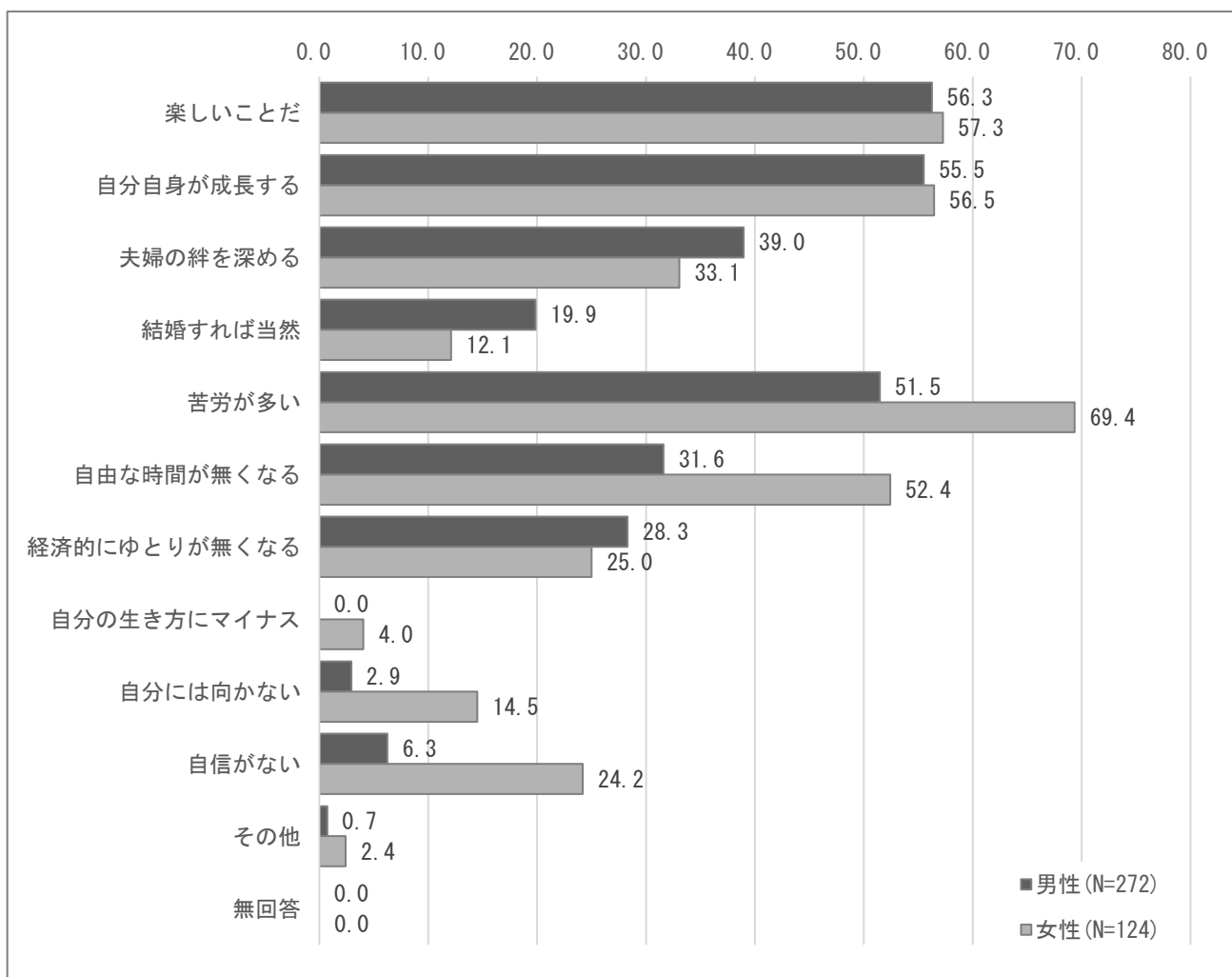
「楽しいことだ」「自分自身が成長する」と肯定的な考えを持つ若者が5割程度いるが、「苦勞が多い」と否定的な考えを持つ若者も同程度の割合となっている。

参考：平成27年度調査との比較 〔若者〕

(%)



平成27年度調査と比較すると、際立った変化は見られないが、「自分自身が成長する」と回答した割合が5%ほど減少している。



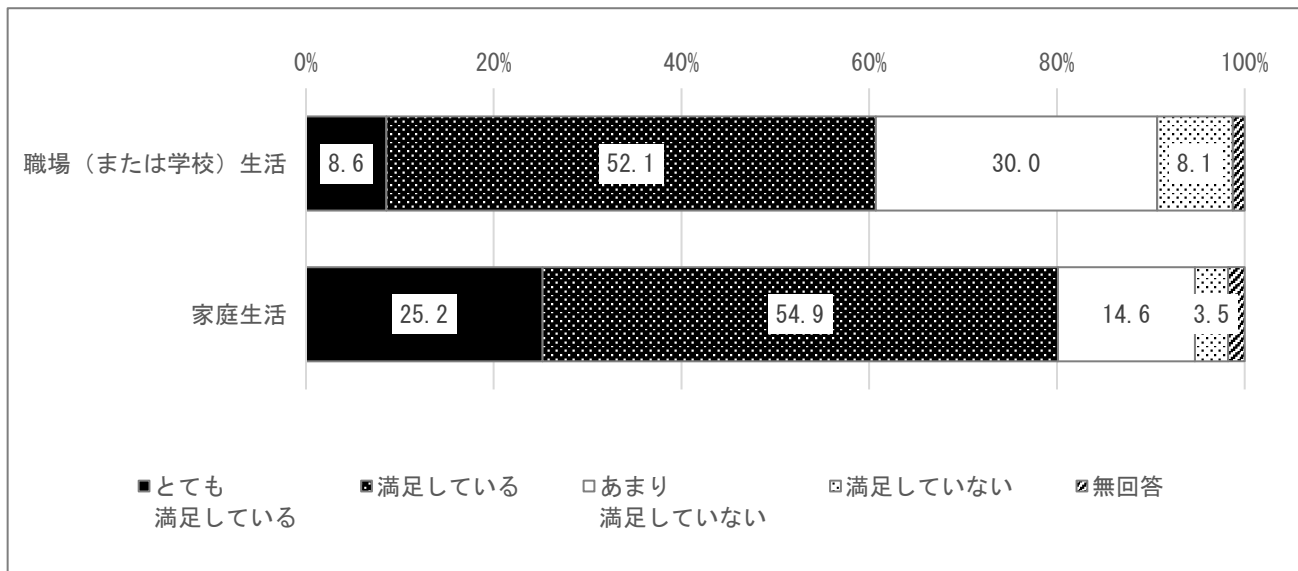
男女の意見を比較すると、「楽しいことだ」「自分自身が成長する」といった肯定的な意見は男女とも同様の割合となっているが、女性では「苦勞が多い」「自由な時間がなくなる」と回答した割合が高くなっているほか、「自分には向かない」「自信がない」の割合も高い。

[若者 問10]

あなたは、毎日の生活にどの程度満足していますか。

【生活の満足度】

(%)



「とても満足している」と「満足している」を合わせた肯定的な回答の割合は職場（学校）生活で60.7%、家庭生活では80.1%となっている。

同様に「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた否定的な回答の割合は、職場（学校）生活で38.1%、家庭生活で18.1%となっている。

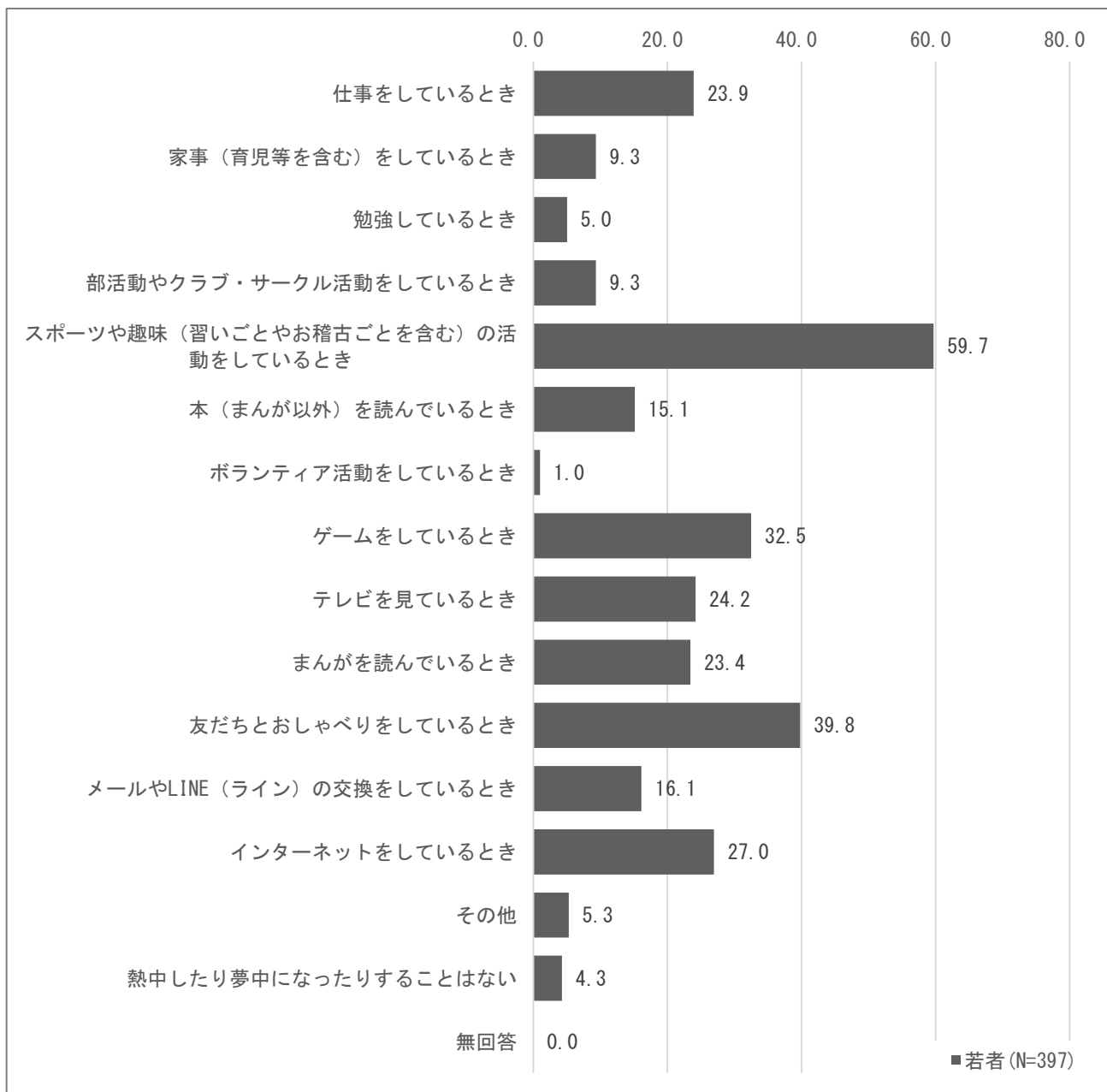
職場（学校）生活と家庭生活を比較すると、家庭生活の満足度が非常に高いことがわかる。

[若者 問11]

あなたが、何かに熱中したり夢中になったりするのとはどんなときですか。（複数回答）

【熱中すること】（複数回答）

(%)



「熱中したり夢中になったりする」ことについての回答で割合が最も高いのは「スポーツや趣味（習い事やお稽古ごとを含む）の活動をしているとき」の59.7%となっている。次いで「友だちとおしゃべりをしているとき」39.8%、「ゲームをしているとき」32.5%の順となっている。

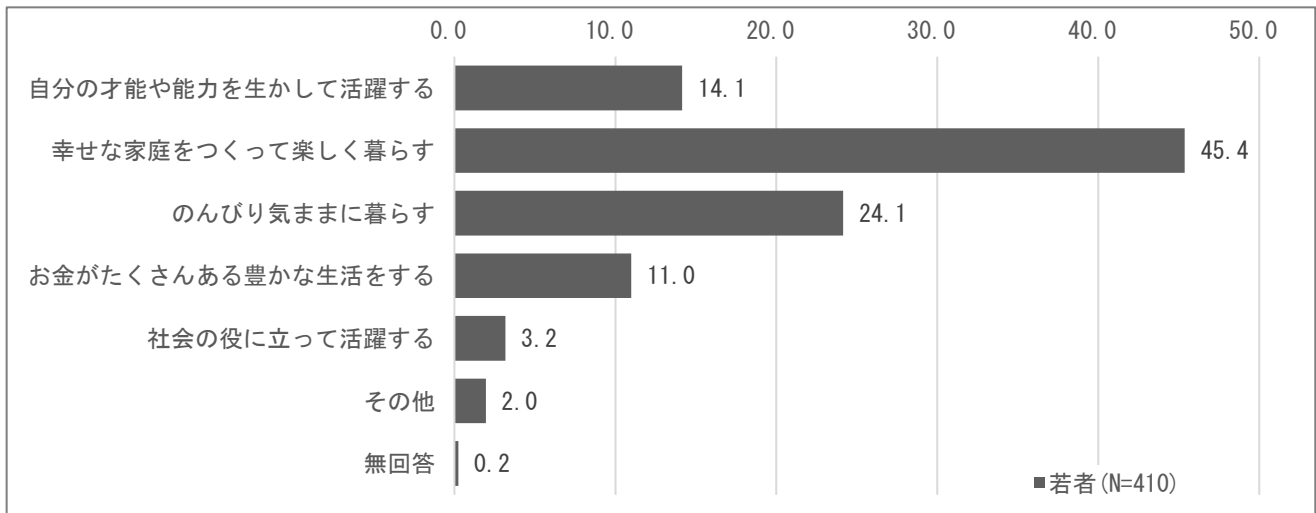
その他の記述では、「パートナーと一緒にいるとき」（2件）、「ライブやフェスに行っているとき」（2件）などが挙げられた。

[若者 問12]

あなたは、自分の将来の生活・生き方について、何を一番大事にしたいと考えていますか。

【自分の将来の生活・生き方について、一番大事にしたいこと】

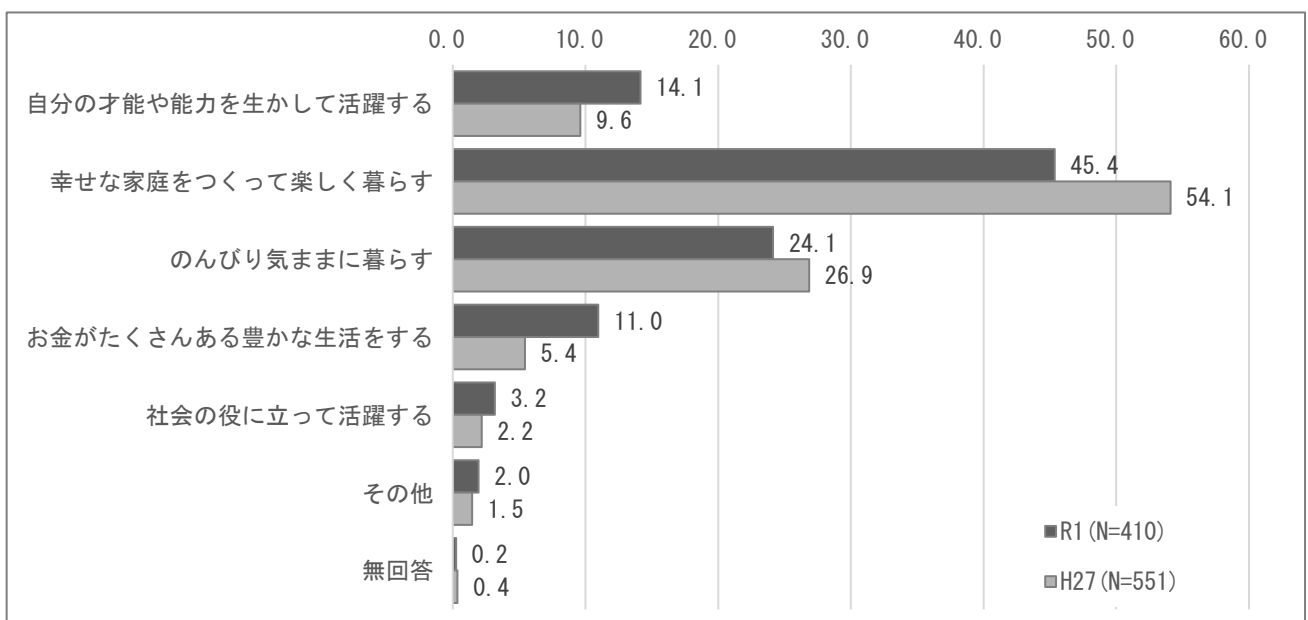
(%)



「幸せな家庭をつかって楽しく暮らす」の割合が最も高く、次いで「のんびり気ままに暮らす」の割合が24.1%となっている。

参考：平成27年度調査との比較 [若者]

(%)



平成27年度調査と比較すると、「自分の才能や能力を生かして活躍する」や「お金がたくさんある豊かな生活をする」の割合が上昇している。また、「幸せな家庭をつかって楽しく暮らす」や「のんびり気ままに暮らす」の割合が低下している。自身の能力を生かして豊かな生活を手に入れようと思う若者が増加していることがわかる。

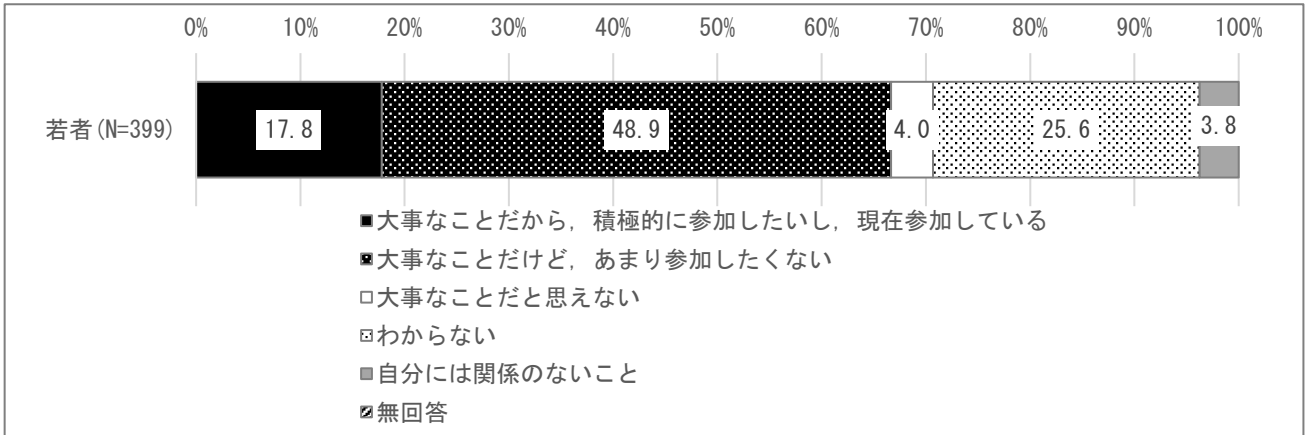
IV 考えや悩みなどについて

[若者 問13]

あなたは、地域活動や市民活動について、どうお考えですか。

【地域活動等への関心】

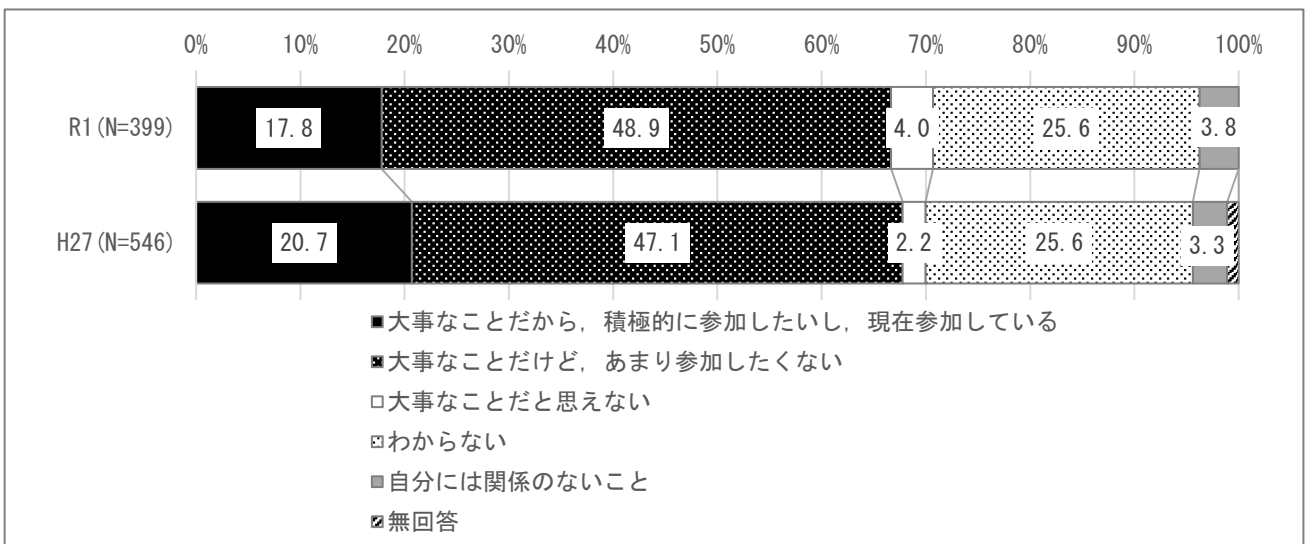
(%)



「大事なことだけど、あまり参加したくない」の割合が48.9%と最も高く、次いで「わからない」割合の25.6%となっている。「大事なことから、積極的に参加したいし、現在参加している」と回答した割合は17.8%となっている。

参考：平成27年度調査との比較 [若者]

(%)



平成27年度調査と比較すると、「積極的に参加したいし、現在参加している」割合がするなど、地域活動や市民活動を「大事なこと」と思う割合が低下している。

一方、「大事なことだと思えない」や「自分には関係のないこと」と回答した割合が増加している。

【指標 [若者の地域活動への参画意識]について】

「大事なことから積極的に参加したいし、現在参加している」と回答した割合

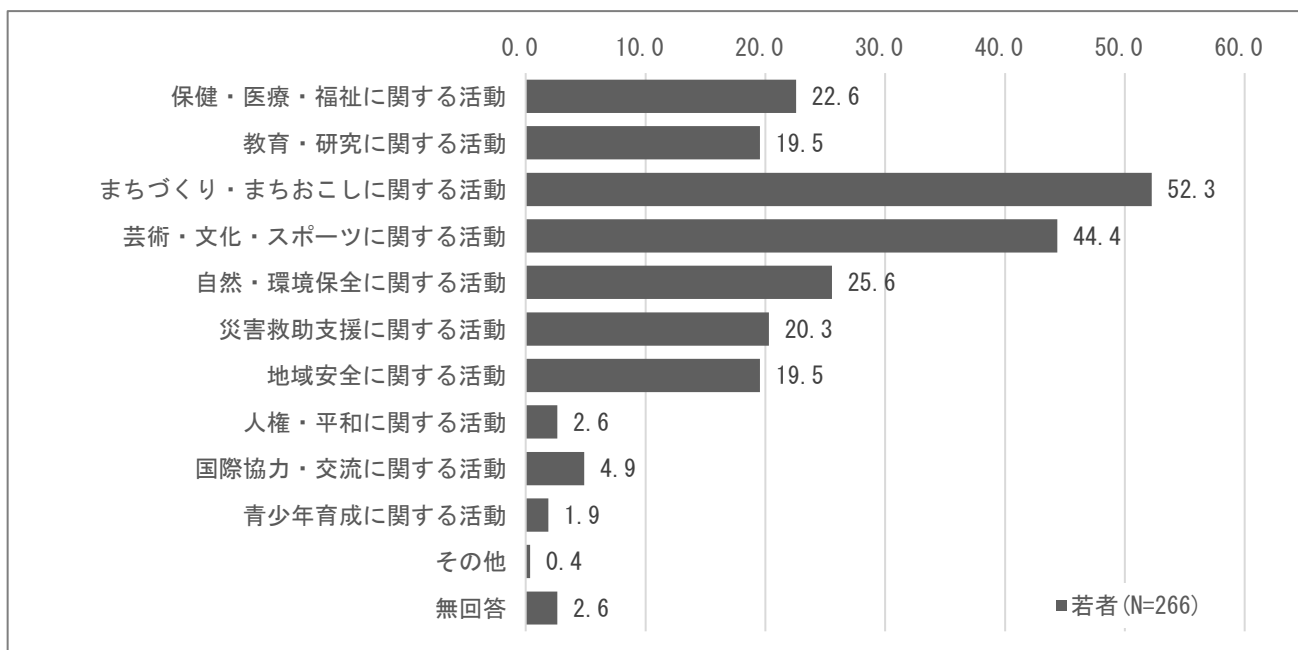
基準値 (H27)	目標値 (H32)	実績値 (R1)
20.7%	26.0%	17.8%

【若者 問14】

地域活動や市民活動を大事なことと答えた方にうかがいます。（参加・非参加問わず）
あなたが特に興味のある活動は何ですか。（3つまで）

【自身の地域での活動】（3つまで）

(%)



特に興味のある活動の割合は、「まちづくり・まちおこしに関する活動」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「芸術・文化・スポーツに関する活動」の 44.4%となっている。

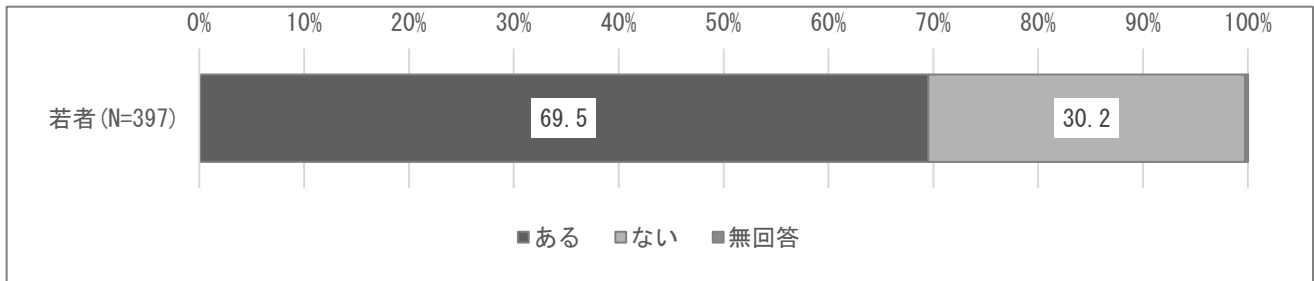
「保健・医療・福祉に関する活動」「教育・研究に関する活動」「自然・環境保全に関する活動」「災害救助支援に関する活動」「地域安全に関する活動」の割合は2割程度、「人権・平和に関する活動」および「青少年育成に関する活動」の割合は2～3%程度と低くなっている。

[若者 問15, 16]

あなたは、男女が平等でないと感じることはありますか。
ある場合、それはどんなことですか。

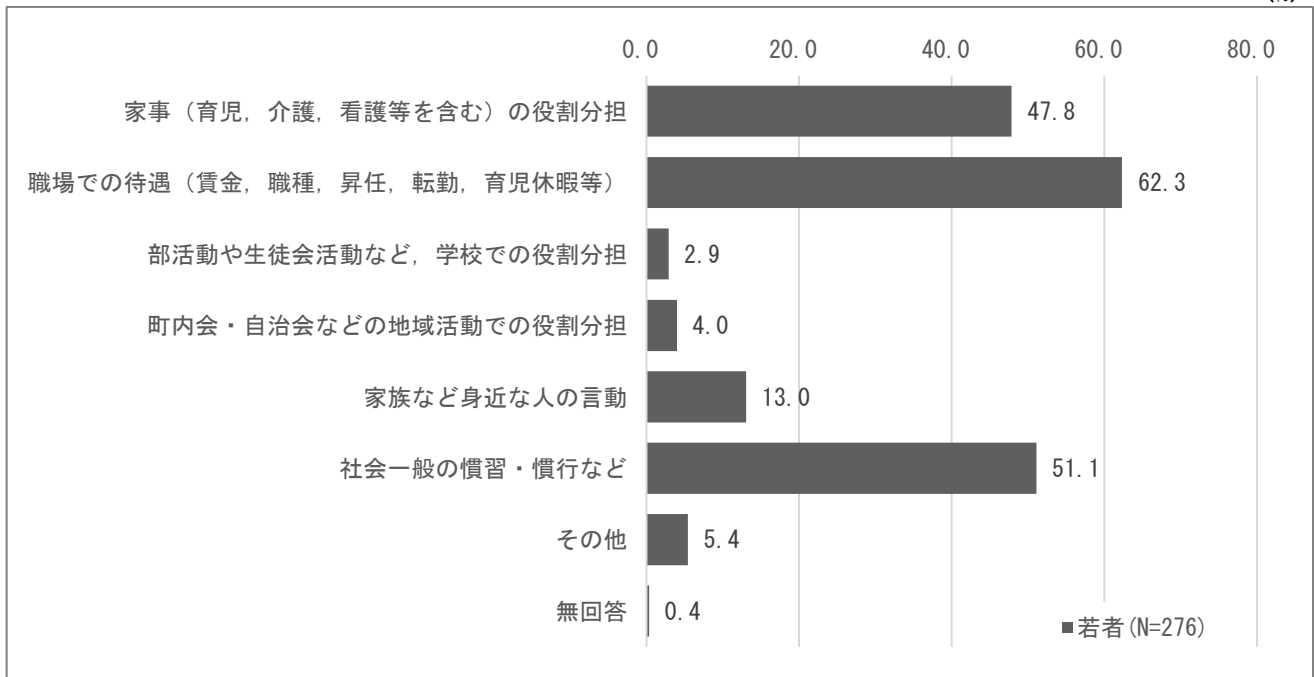
【男女が平等でないと感じることもあるか】

(%)



【男女が平等でないと感じること】(複数回答)

(%)



平等でないと感じる割合はおおよそ7割となっており、平等と感じている割合の2倍以上となっている。男女が平等でないと感じることの割合は「職場での待遇(賃金, 職種, 昇任, 転勤, 育児休暇等)」が62.3%と最も高く、次いで「社会一般の慣習・慣行など」51.1%、「家事(育児, 介護, 看護等を含む)の役割分担」47.8%となっている。

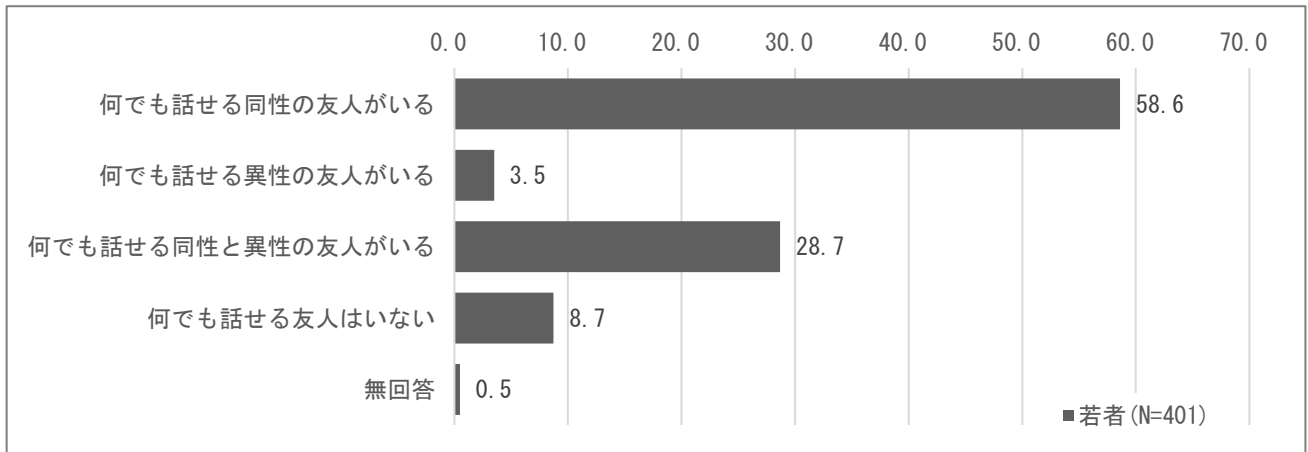
その他の記述では、「レディースデー」や「服装やメイクの強要」などが挙げられている。

[若者 問17]

あなたは、何でも話せる友人がいますか。

【何でも話せる友人の存在】

(%)



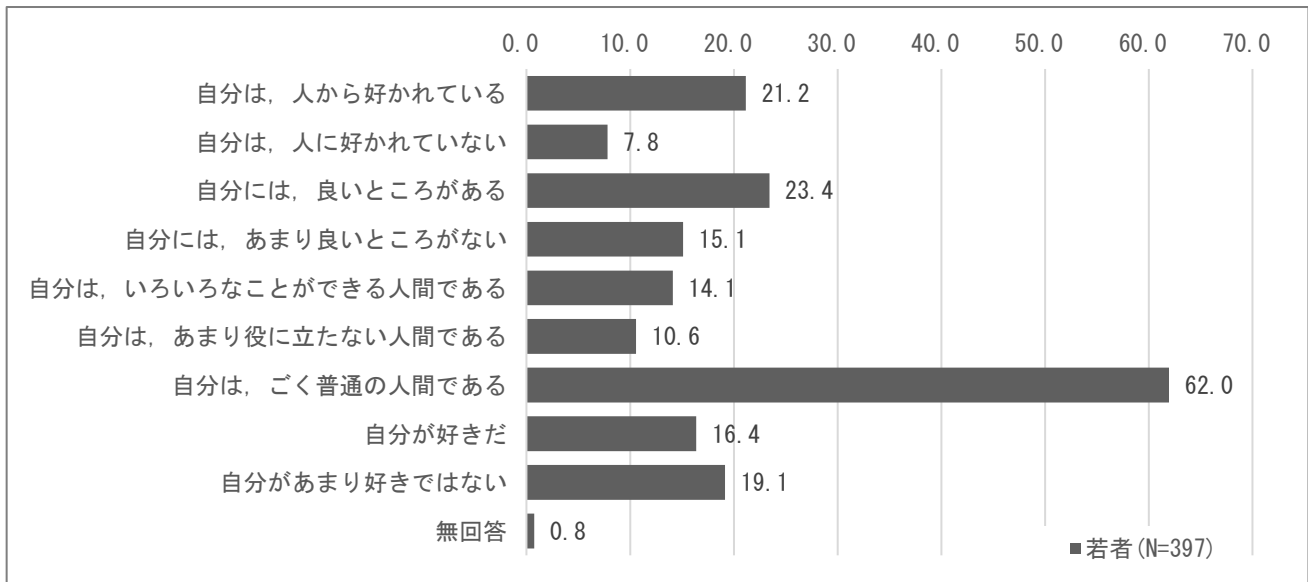
何でも話せる友人がいる割合は「同性の友人」が 58.6%と最も高く、異性も合わせた何でも話せる友人がいる割合は9割ほどとなっている。

[若者 問18]

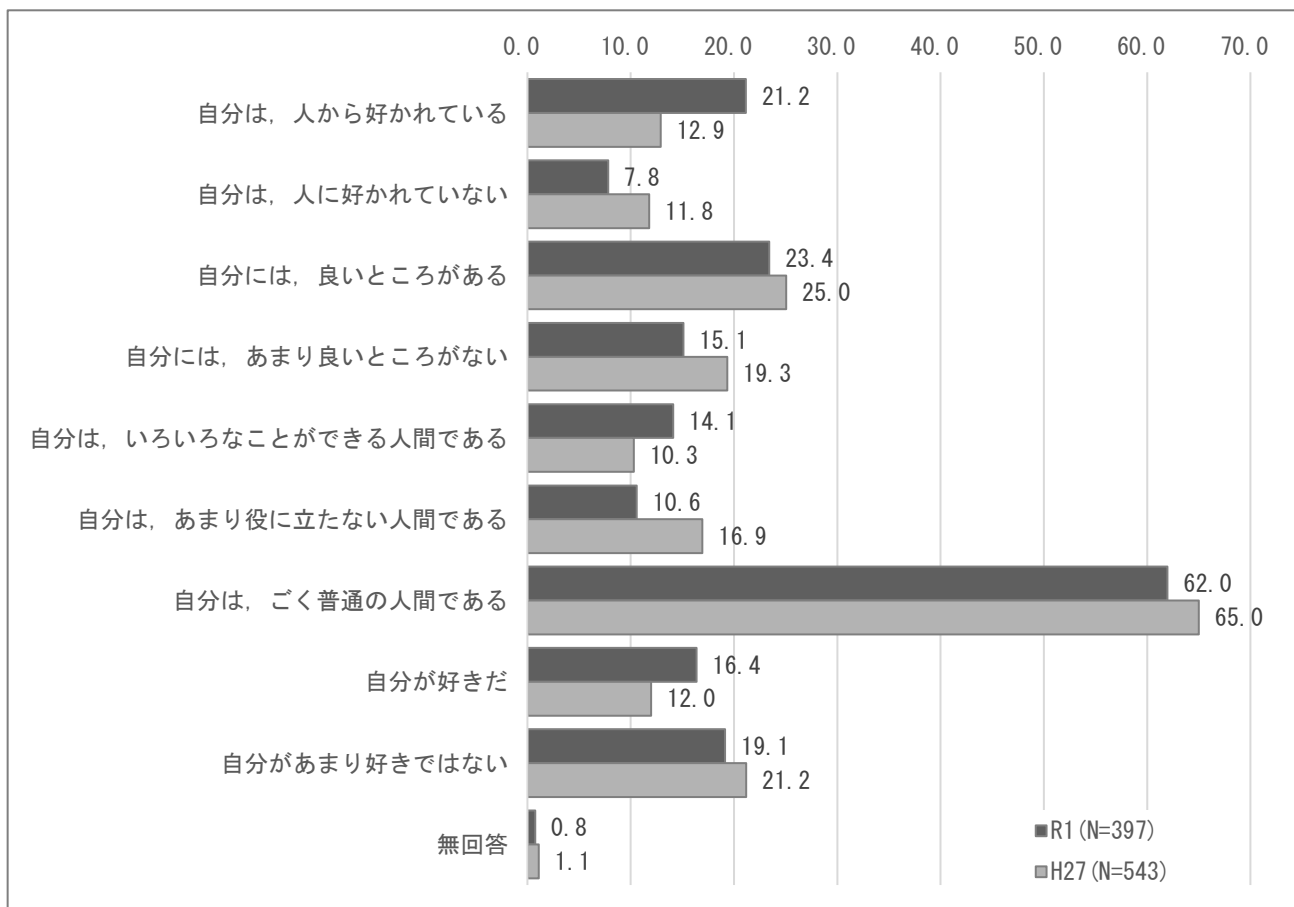
あなたは、自分自身をどのように感じていますか。（複数回答）

【自己肯定感】（複数回答）

(%)



「自分は、ごく普通の人間である」の割合が 62.0%と最も高くなっている。自身に肯定的な回答の割合と否定的な回答の割合を比較すると、肯定的な割合が全体的に高いが、一方「自分があまり好きではない」割合が2割程度存在する。



平成 27 年度調査と比較すると、自身を肯定する割合が全体的に上昇しており、否定的な割合はすべて低下している。

自身に肯定的な回答では「自分は、人から好かれている」の割合は最も増加しており 8.3%の上昇となっているほか、「自分が好きだ」が 4.4%の上昇している。

自身に否定的な回答では「自分はあまり役に立たない人間である」の割合が 6.3%と最も低下し、次いで「自分にはあまり良いところがない」の割合は 4.2%となっている。

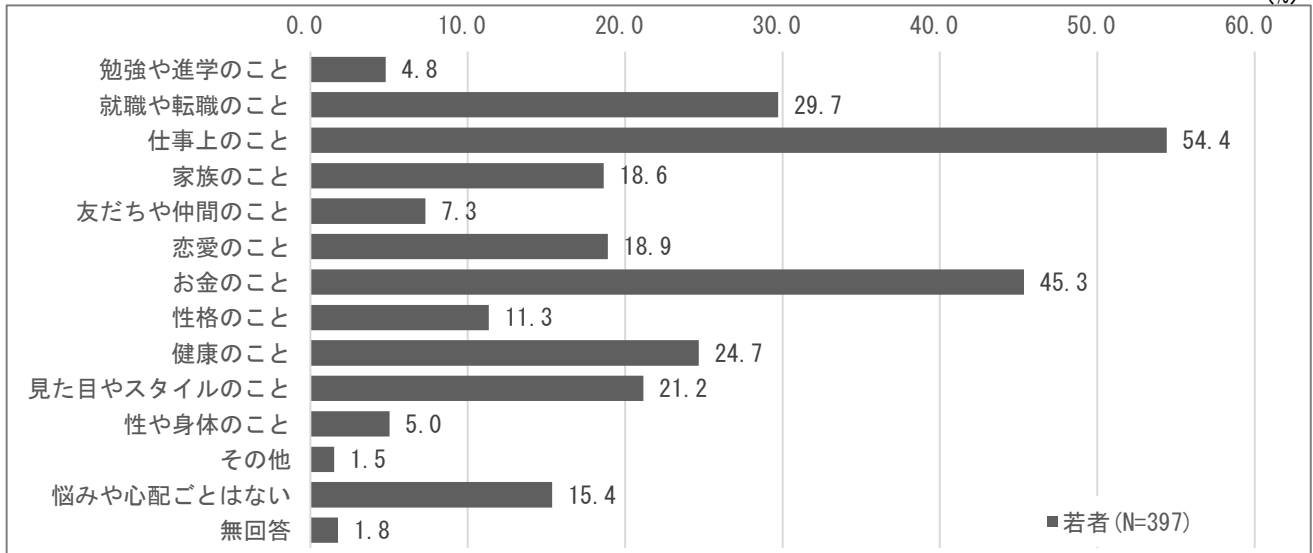
自分自身に自信を持つ若者が増加していることがわかる。

[若者 問23]

あなたは今、悩みや心配ごとがありますか。(複数回答)

【悩みや心配事】(複数回答)

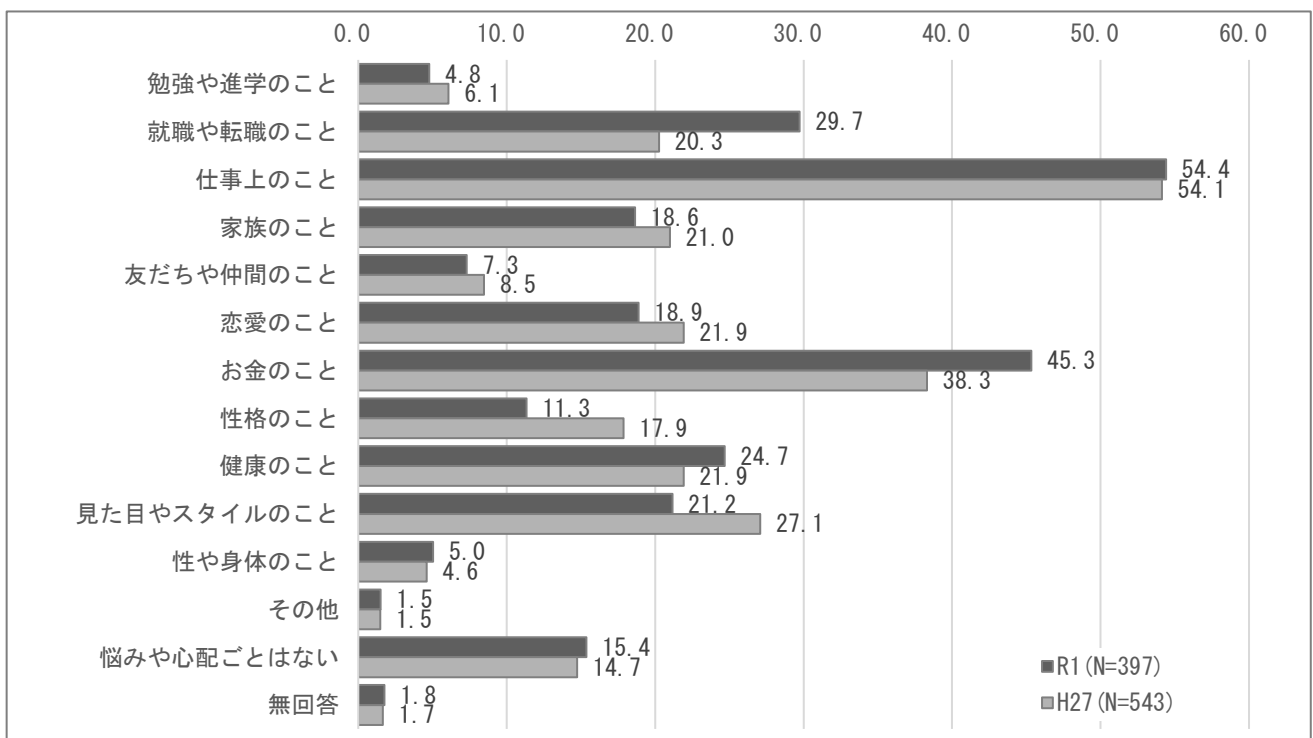
(%)



悩みや心配事の割合は「仕事上のこと」が54.4%と最も高くなっており、次いで「お金のこと」45.3%、「就職や転職のこと」29.7%となっている。

参考：平成27年度調査との比較 [若者]

(%)



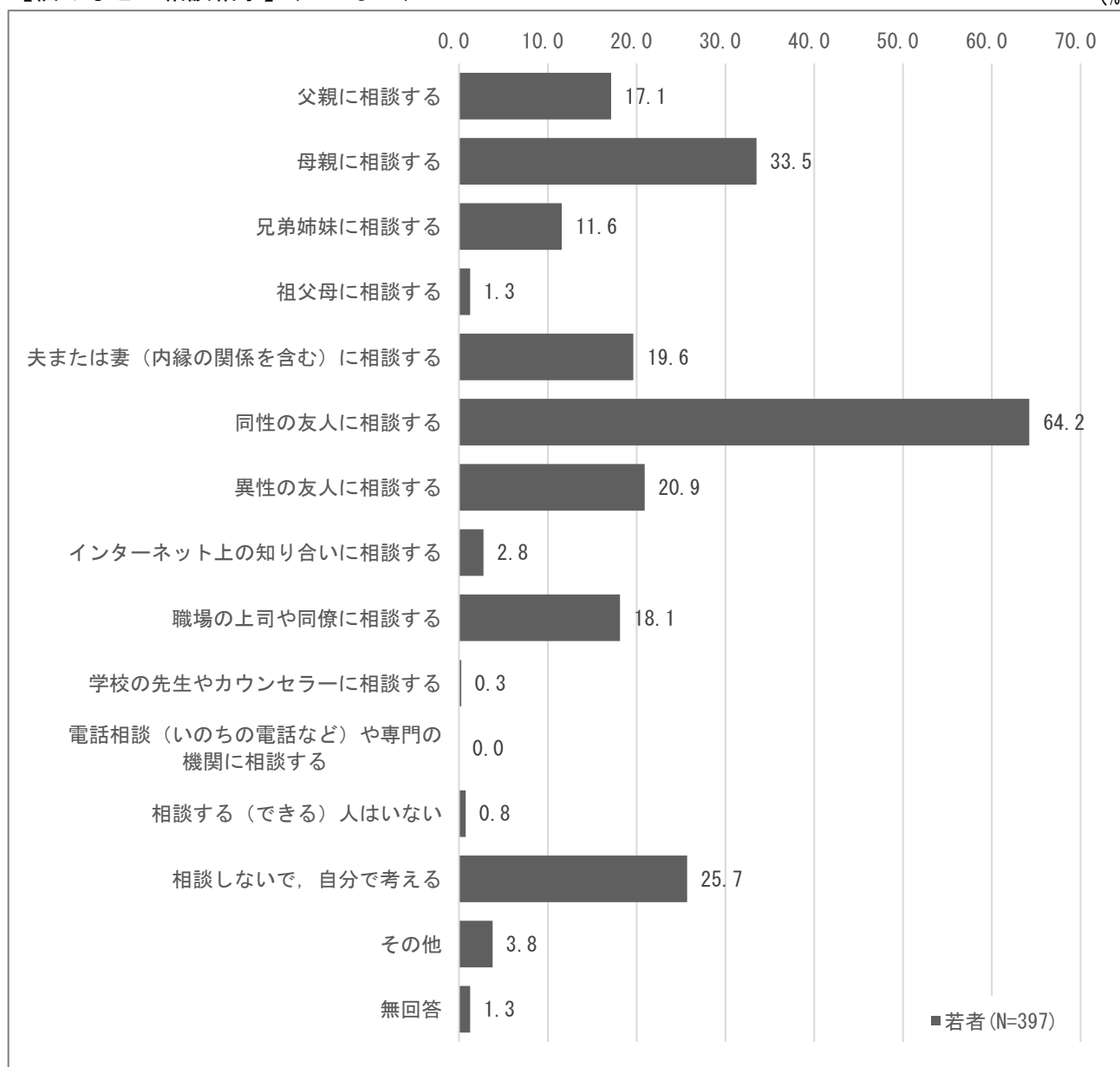
平成27年度調査と比較すると、「就職や転職のこと」および「お金のこと」の割合が大きく上昇している。

[若者 問24]

あなたは、悩みや心配ごとがあるとき、どうしていますか。(3つまで)

【悩みなどの相談相手】(3つまで)

(%)



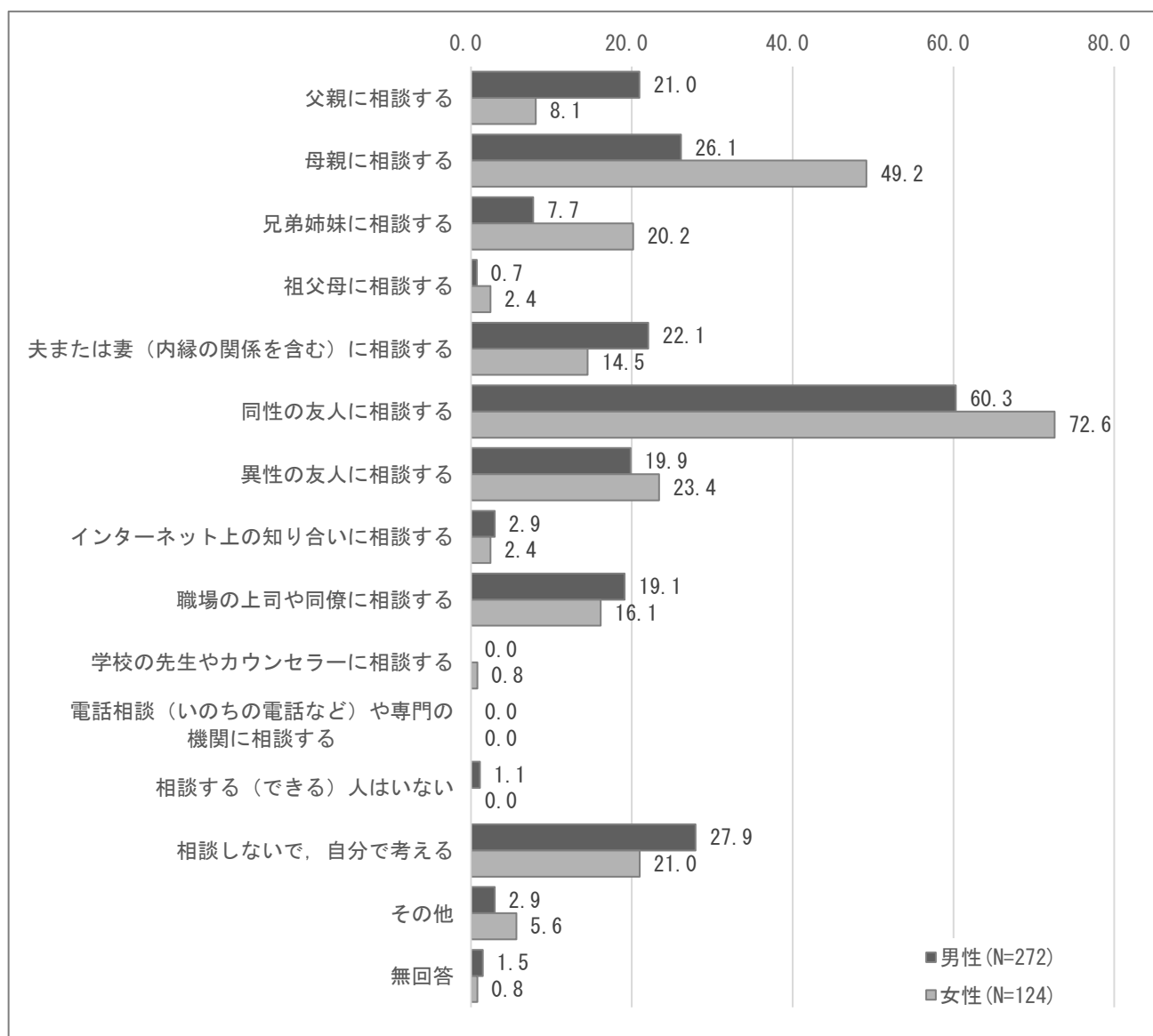
悩みなどの相談をする相手の割合は「同性の友人に相談する」が64.2%と最も高く、次いで「母親に相談する」33.5%、「相談しないで自分で考える」25.7%となっている。

一方、「学校の先生やカウンセラー」「電話相談や専門の機関」といった家族や知人ではない人を相談相手に選ぶ割合は低い。

その他の記述では、「交際相手に相談する」が3件、次いで「インターネットで調べる」との回答が2件あった。

参考：男女の比較 [若者]

(%)



男女の相談相手を比較すると、男性は父親に、女性は母親に相談する割合が高くなっている。姉妹に相談する割合は女性が高い。ほか、夫に相談する女性より、妻に相談する男性の割合が高くなっている。

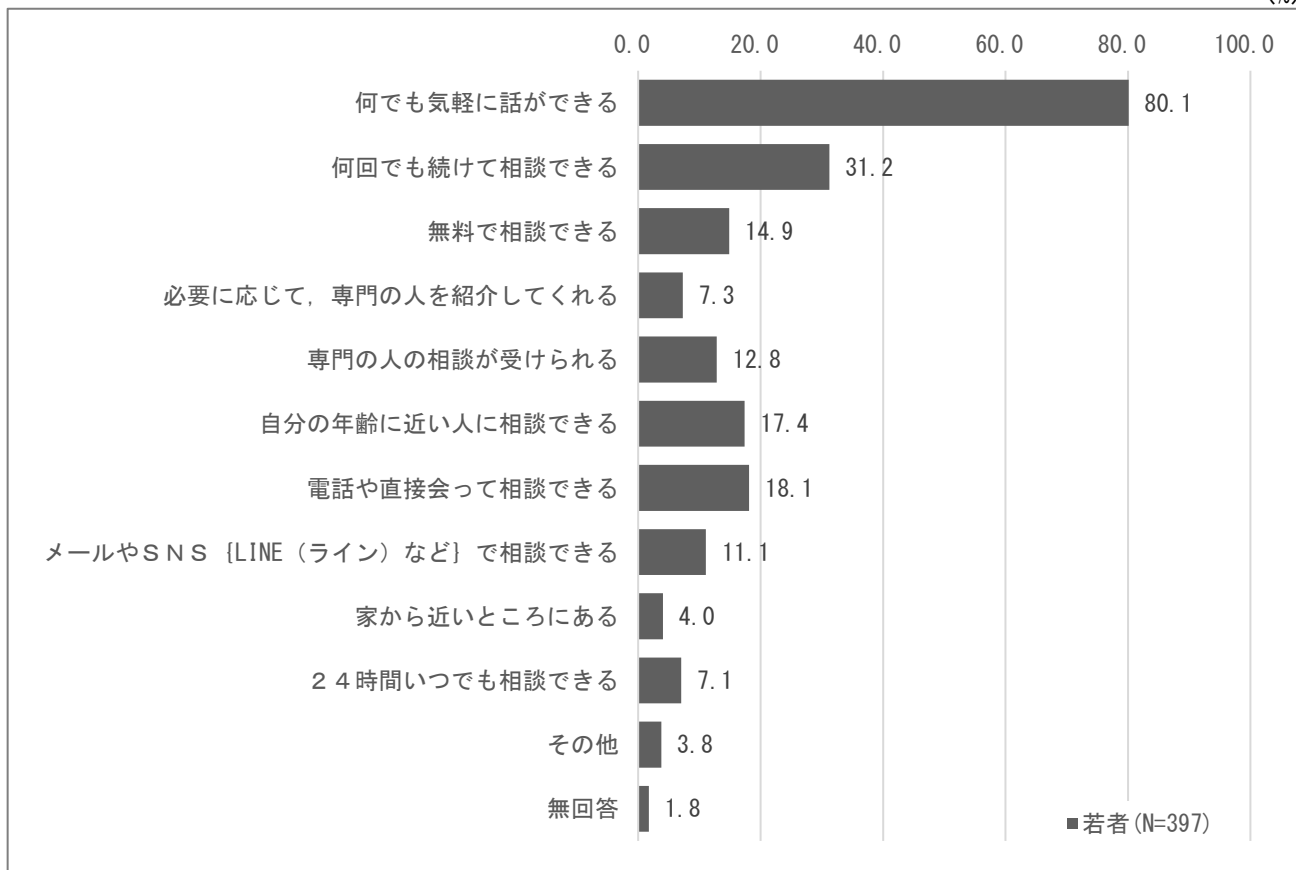
女性は同性の友人に相談する割合が特に高い。相談しないで自分で考える割合は男性が高くなっている。

[若者 問25]

あなたは悩みや心配ごとを相談するときに、何を重視しますか。(3つまで)

【悩みなどの相談で重視すること】(3つまで)

(%)



8割の若者が「何でも気軽に話ができる」ことを重視しており、次いで「何回でも続けて相談できる」となっている。

「家から近いところにある」についてはあまり重視されていない。

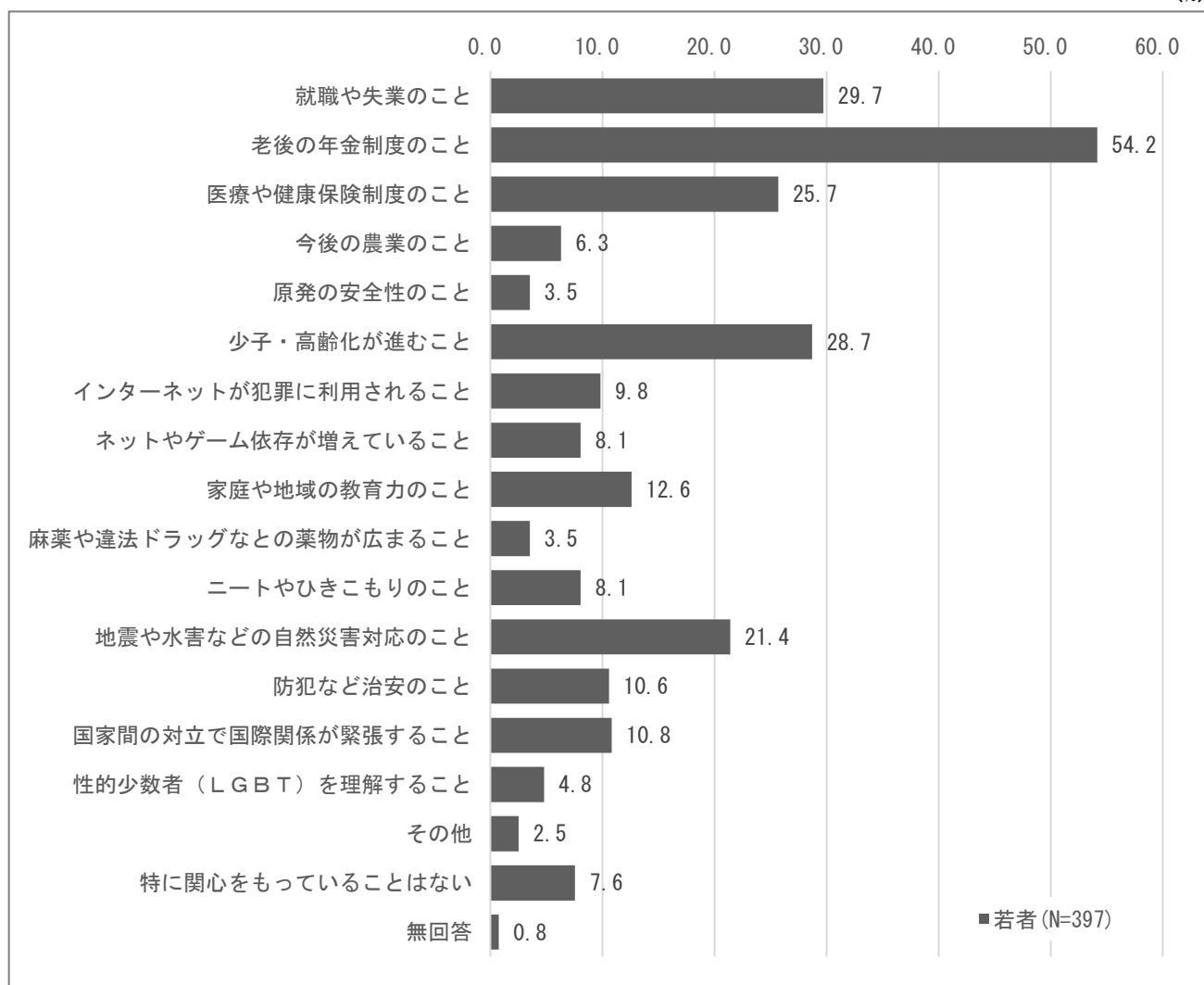
その他の記述では、「個人情報や秘密を守る」ことについて多数の回答があったほか、「悩みや心配ごとはない」との回答も複数あった。

[若者 問19]

あなたは社会の様々な問題で、特に興味をもっていることは何ですか。（3つまで）

【関心のある社会問題】（3つまで）

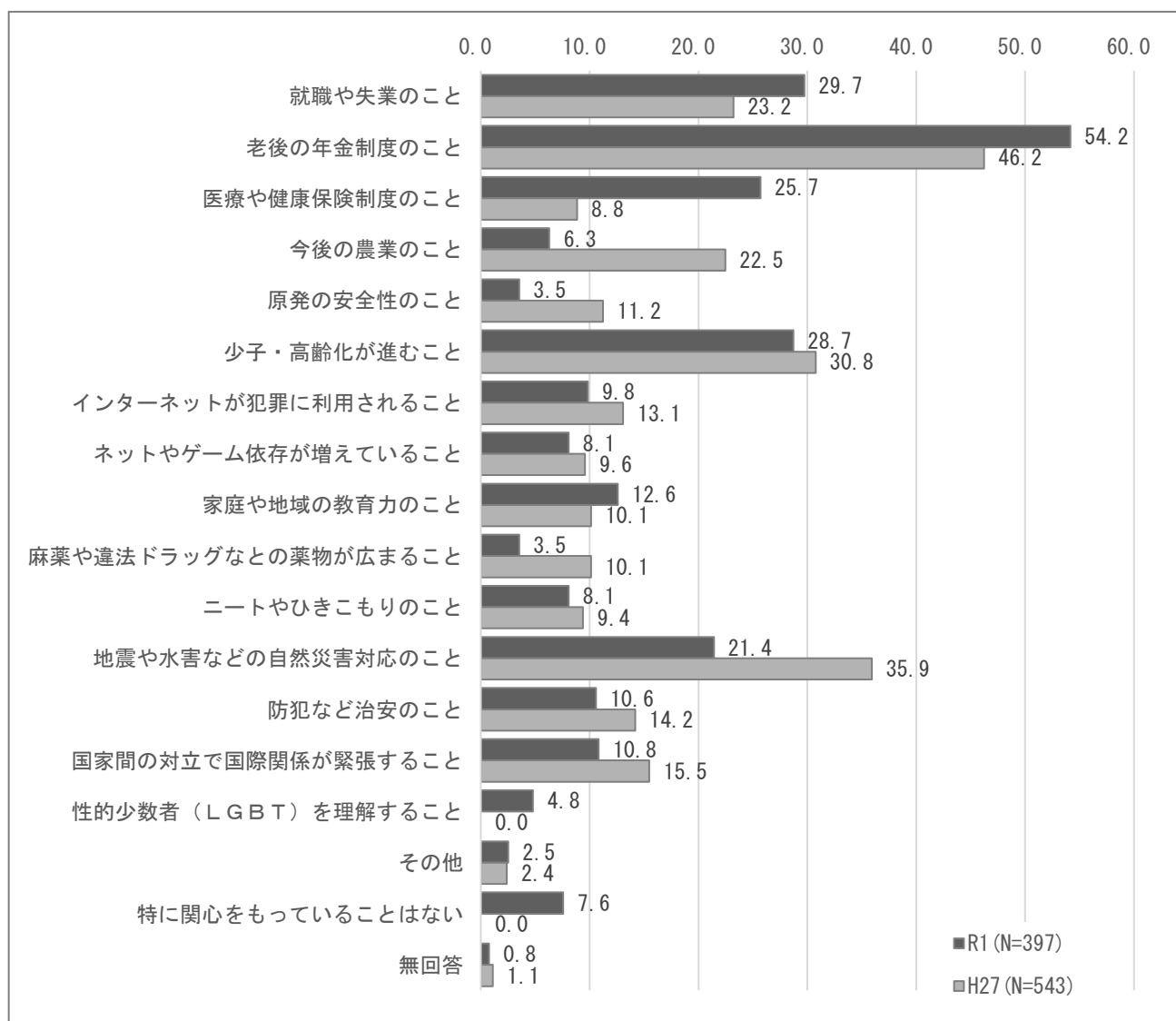
(%)



関心のある社会問題の割合は、「老後の年金制度のこと」が54.2%と最も高くなっており、次いで「就職や失業のこと」29.7%、「少子・高齢化が進むこと」28.7%、「医療や健康保険制度のこと」25.7%となっている。

その他の記述では、経済や税金などのお金に関する内容が複数あった。

割合の高い項目を見ると、生活に直結していることや、自身の将来に対する関心が高い様子がうかがえる。



平成 27 年度調査と比較すると、「医療や健康保険制度のこと」「老後の年金制度のこと」「就職や失業のこと」の割合が上昇しており、「今後の農業のこと」「地震や水害などの自然災害対応のこと」の割合が大きく低下している。

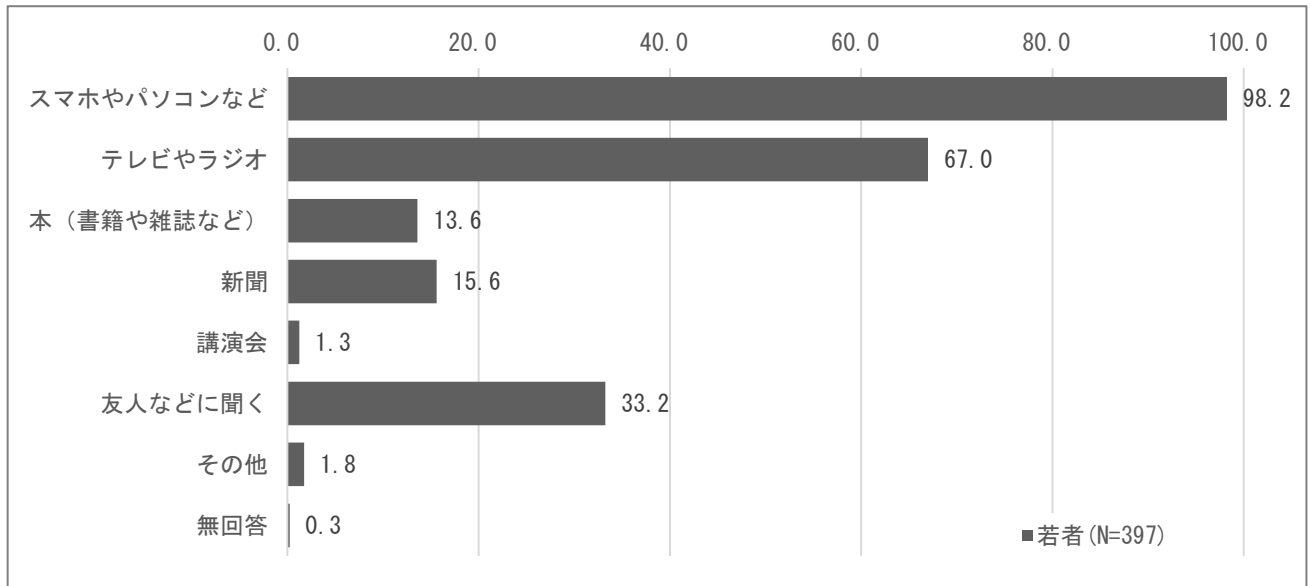
- ※ 本調査は令和元年 10 月の大型台風やそれに伴う大雨等による大規模災害の発生前に実施。
- ※ 「性的少数者（LGBT）を理解すること」および「特に興味をもっていることはない」の選択肢は令和元年度の調査より追加しているため平成 27 年度の調査項目では 0% と表示している。

[若者 問20]

あなたは、どのようにして必要な情報を得ていますか。(3つまで)

【情報収集の手段】(3つまで)

(%)



若者の情報収集の手段は、「スマホやパソコンなど」の割合が 98.2%となっており、次いで「テレビやラジオ」67.0%、「友人などに聞く」33.2%となっている。

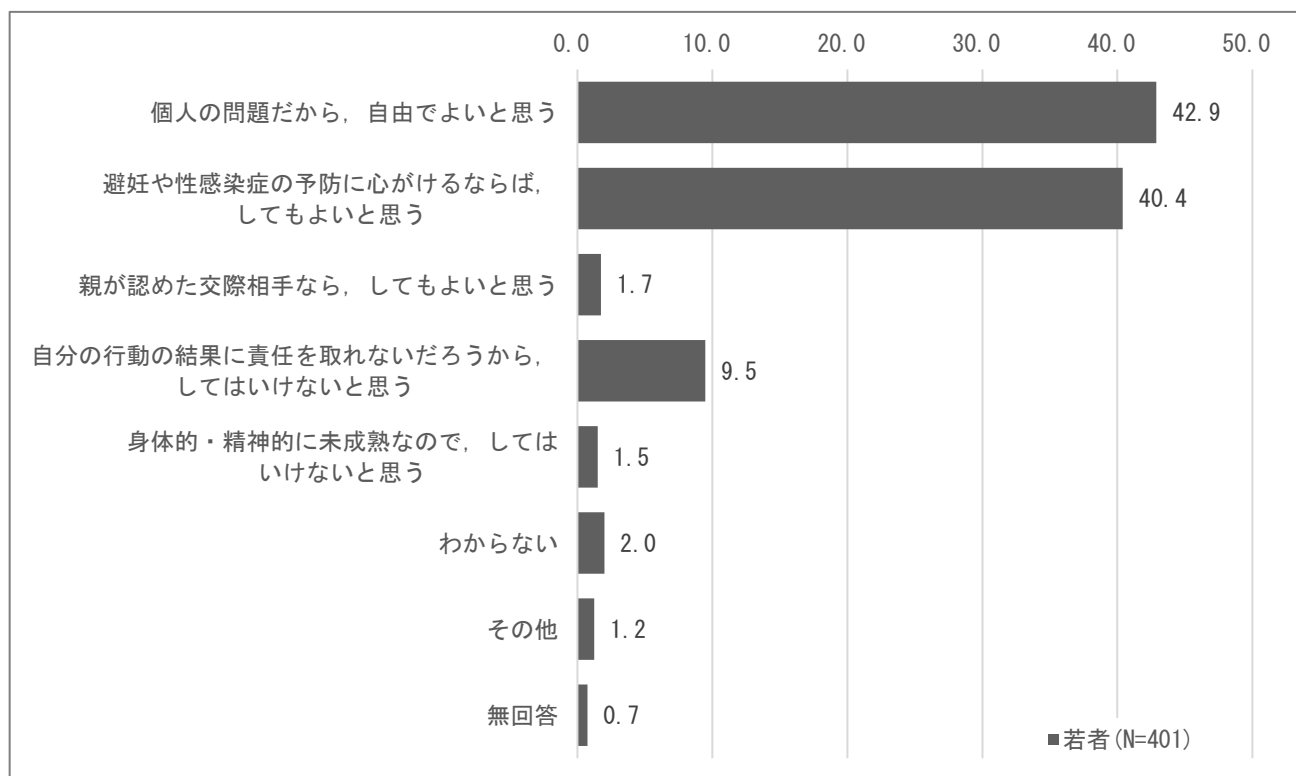
若者の情報収集の手段では「新聞」「本」の割合が低い傾向となっている。

[若者 問21]

あなたは、18歳未満の青少年が性的な関係をもつ（性交する）ことについて、どう思いますか。

【性的な関係をもつ（性交する）ことについて】

(%)



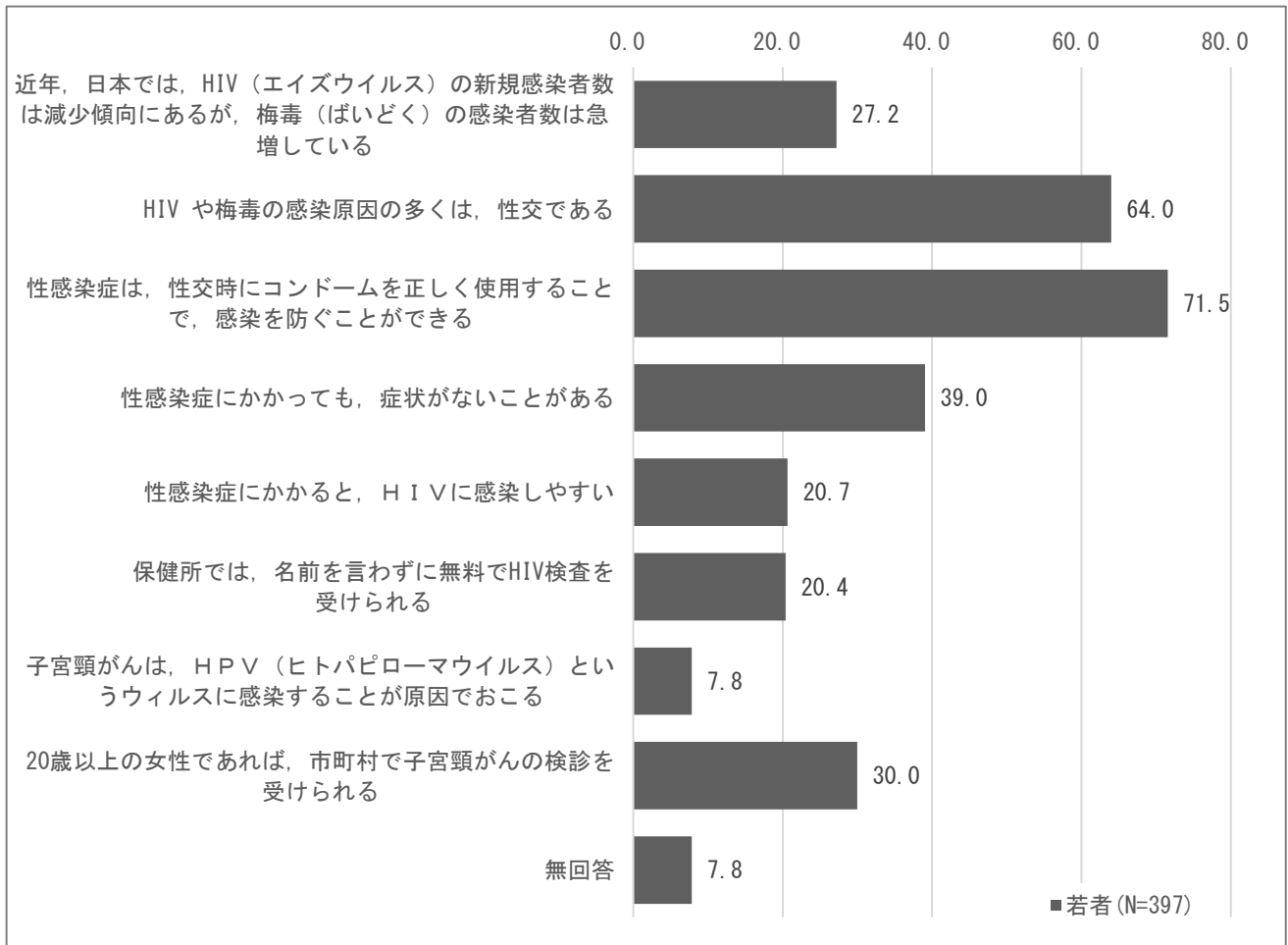
「個人の問題だから、自由でよいと思う」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「避妊や性感染症の予防に心がけるならば、してもよいと思う」の割合が 40.4%となっている。18歳未満の青少年が性的な関係を持つことについて、約8割が肯定的な考えを持っている。

[若者 問22]

あなたが次の中で知っているのはどれですか。（複数回答）

【性行為に関する知識】（複数回答）

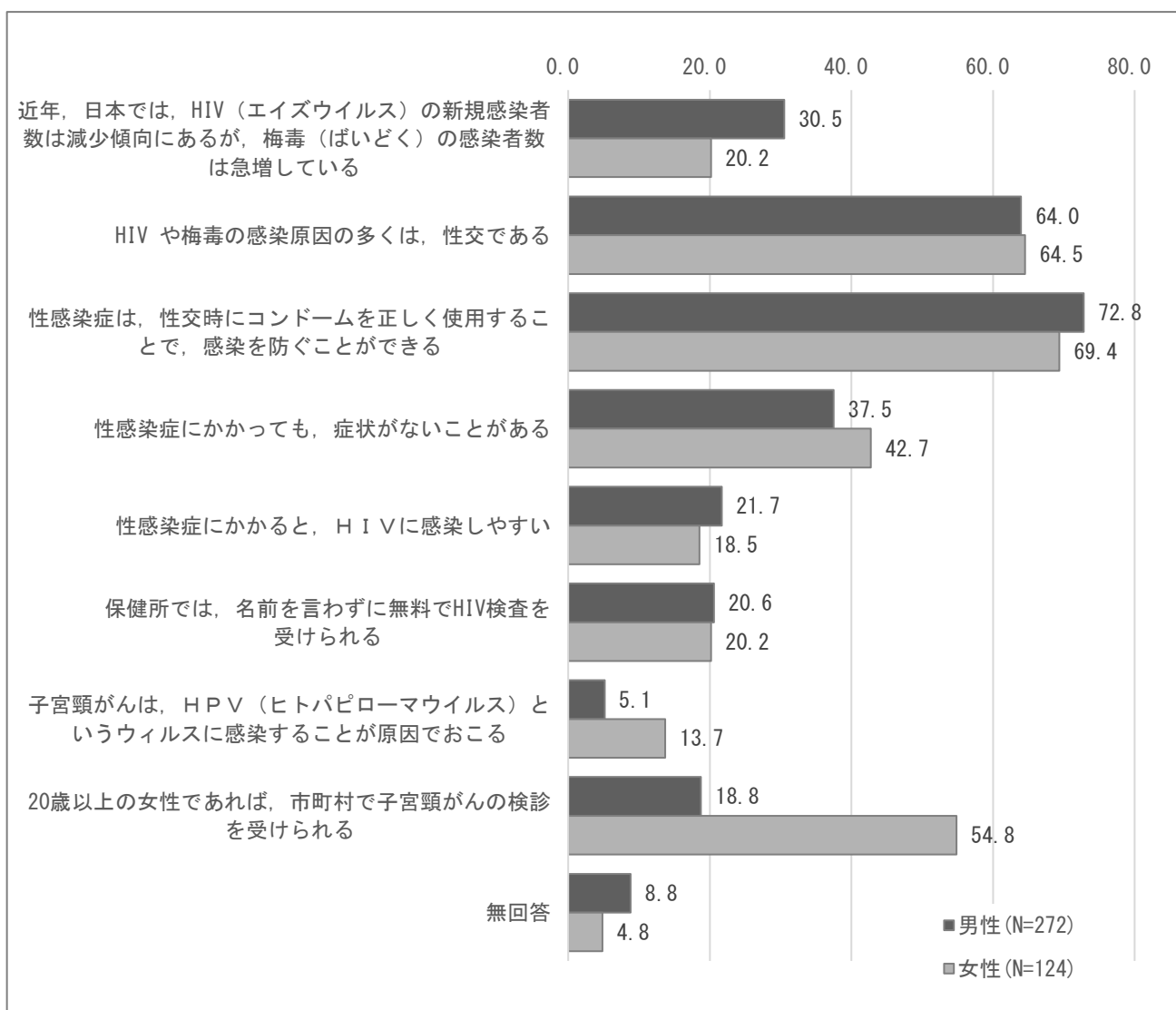
(%)



「性感染症は、性交時にコンドームを正しく使用することで、感染を防ぐことができる」の割合が71.5%と最も高く、次いで「HIV や梅毒の感染原因の多くは、性交である」64.0%、「性感染症にかかっても、症状がないことがある」39.0%となっている。

HIV についての複数の内容を知っている割合はいずれも2割台となっており認知度が低い。

「子宮頸がんは、HPV（ヒトパピローマウイルス）というウイルスに感染することが原因でおこる」7.8%と、最も低い認知度となっている。



男女の意見を比較すると、「20歳以上の女性であれば、市町村で子宮頸がんの検診を受けられる」の割合は女性が非常に高くなっており、「近年、日本では、HIV（エイズウイルス）の新規感染者数は減少傾向にあるが、梅毒（ばいどく）の感染者数は急増している」の割合では、男性の方が高く、女性の割合が低い傾向がある。

すべて知らなかったことを示す「無回答」の割合は、男性が高くなっている。